

平成29年度環境カウンセラー研修開催業務 実 績 報 告 書



特定非営利活動法人
北海道環境カウンセラー協会

目 次

1. はじめに	3
2. 業務の目的	3
3. 業務の内容	3
(1) 研修の企画・調整及び事前準備	3
(2) 研修当日の運営	6
(3) 研修の開催	6
(4) 事後処理	24
(5) 本業務の総括	24

添付資料

資料 1 配布資料	26
資料 2 基調講演資料	27
資料 3 講義・実習資料	49
資料 4 講義・実習資料（追加分）	60
資料 5 アンケート	68
資料 6 アンケート集計結果	70
資料 7 アンケート（一般分）	73
資料 8 アンケート集計結果（一般分）	74

1. はじめに

特定非営利活動法人（以下「NPO 法人」という。）北海道環境カウンセラー協会は、平成29年度環境カウンセラー研修開催業務仕様書（以下「業務仕様書」という。）に基づき、本研修の企画・運営を行った。この報告書は、実施した業務内容を報告するものである。

2. 業務の目的

本業務は、環境保全に関する豊富な知識や経験を持ち、環境保全活動に取り組もうとする市民や事業者の相談に対応するとともに、自ら環境保全活動を実践し、環境パートナーシップづくりをすることを期待される人材（環境カウンセラー）を対象として、環境カウンセラーとしての資質・能力の向上や情報交流による環境カウンセラー間のパートナーシップ形成を図ること等を趣旨として開催する「環境カウンセラー研修」（以下、「研修」という。）について、より効果的に行うための検討、企画、調整等の業務及び、研修を運営することを目的とする。

3. 業務の内容

（1）研修の企画・調整及び事前準備

① 研修プログラムの検討・作成

ア）業務仕様書に基づき、研修会午前の部として、受講者全員（定員50名程度）を対象とした基調講演（一般公開とする）について検討した。その結果、環境保全施策の最新動向を踏まえ、「SDGs」をサブテーマとすることとした。さらに、主要テーマであるESDの視点（相手に気付かせる、考えさせる、行動に移させる）を取り入れた「ファシリテーション技術の向上」を考慮し、参加する環境カウンセラーが、グループワークの進行を行うスタイルとすることとし、講師候補を選定し、実施計画（案）を作成した。

イ）業務仕様書に基づき、研修会午後の部のグループワークのプログラムを検討し、午前の部の内容を踏まえつつ、主要テーマであるESDの視点（相手に気付かせる、考えさせる、行動に移させる）を取り入れた「ファシリテーション技術の向上」について、講師候補を選定し、講演と実習を組み込んだ実施計画（案）を作成した。

② 講演テーマの設定及び講師依頼

研修の実施計画（案）について、事務所担当者と協議した結果、業務の目的に合致した計画であるとの評価を得、基調講演・グループワークのテーマについて、事務所担当者と協議の上設定した。選定していた講演およびグループワークの候補者に、講演の依頼を行い、快諾していただき、その後、メールと対面による事前の打合せを行った。

・講師

基調講演：札幌市環境局環境都市推進部環境計画課調査担当係長 佐竹輝洋氏

グループワーク：環境省北海道環境パートナーシップオフィス 溝渕清彦氏

③ 研修会場の確保

研修会場は、参加者の利便性を考慮し、札幌駅前にある公共施設「札幌エルプラザ」2 階の環境研修室を利用することとした。

④ プログラムの確定、資料及びアンケートの作成

講師と会場が確定したのを受け、研修の実施計画（案）と基調講演のテーマをもとに、本プログラムを確定した。

午前の部	10:00～10:10 (10 分)	開会・オリエンテーション 主催者挨拶 環境省北海道地方環境事務所 環境対策課 課長 遊佐 秀憲
	10:10～12:00 (110 分)	基調講演（一般公開） 「SDGs って何だろう？～なぜ、国、自治体、企業が取り組もう としているのか？」 札幌市環境局環境都市推進部環境計画課調査担当係長 佐竹 輝洋 様
	12:00～13:00 (60 分)	昼食・休憩
午後の部	13:00～16:40 (210 分)	講義と実習 「SDGsについて、ともに考えるファシリテーション技術」 講師／ファシリテーター 北海道環境パートナーシップオフィス/北海道ESD活動支援 センター 溝渕 清彦 様 ファシリテーターの役割、準備、意見や気づきを引き出す「問 い」「プログラム」についてなど、さまざまな場面で役立つ 「ファシリテーション技術の向上」について学び、体験する。
		休憩（5 分間）
		実践研修のふりかえり～自分は何は変わったか（30 分） 出席者各自による発表
		まとめ（10 分）
	16:40～16:45	閉会式〈修了証交付〉、アンケートの記入等 解散

研修に使用する資料及びアンケートについては、講演講師及び北海道地方環境事務所と内容を調整し、作成した。

(2) 研修当日の運営

① 会場の設営、受付事務

会場に必要な機材、資料を搬入し、機材の調整、受付の設置、研修会場の机の並べ替え、資料配付等を行った。また、研修出席者の受付を行い、出席者名簿に基づいて、当日の出席予定者の出欠状況の確認を行った。

② 研修の進行管理等

研修会場での進行管理及び講師接遇を行った。また、研修会終了後、受講者に対してアンケートを実施した。

③ 実績報告書作成のための記録等

研修状況の写真撮影、研修内容の録音、研修教材等資料の収集整理を行った。

(3) 研修の開催

■10:00～10:10

開会・オリエンテーション・主催者挨拶

司会

環境省北海道地方環境事務所 環境対策課 企画係 矢吹 育夫 氏

主催者挨拶

環境省北海道地方環境事務所 環境対策課 課長 遊佐 秀憲 氏

皆さん、おはようございます。本日はご多忙のところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

このカウンセラー研修ですが、平成8年度より始まりまして、それに合わせまして登録制度ということで、平成29年度の今日まで行っております。全国の登録者数は、3,300名を超えております。北海道の登録者数は、現時点では74名となっております。多くの方々に、長年にわたりご協力をいただきまして、ありがとうございます。環境カウンセラーといえ、地方、市町村における環境の専門的な立場で、町の人たちのお役になっているということで私も認識しております。

さて、今年度のテーマですが、ESDの視点から、相手に気づかせる、考えさせる、行動に移させる、ということで、それを取り上げたSDGs。そしてそれを合わせましたファシリテーション技術の向上ということ为主要テーマとして、今回は皆さんに議論をしてもらいたいと思っております。環境カウンセラーの皆様におかれましては、日頃より環境保全施策の最新動向や環境保全活動に際し、最新情報収集に努められていると思いますが、相談対応において情報の一方的な伝達になってしまうことも、しばしばあるかと思えます。この研修では、どのように情報を伝え、相手に伝わるのか。伝えるためにはどのような話し方があるのか、などについて考えていただきます。そして、そのきっかけとなればと思っております。



本日は、札幌市環境計画課の調査担当係長の佐竹様より、SDGs についてご講演をいただきます。持続可能な開発目標の略称である SDGs は、環境省の重点目標のひとつでもあります。この講演は、これから取り組む自治体や企業の方々にとって、そして、住民の方たちにとっても、非常に、参考になると考えております。これまで取り組んでいただいている ESD の取り組み、そして、これから取り組んでいただく SDGs においても、環境カウンセラーの皆様には、自らの経験を生かした地域の環境保全活動への積極的なご参加・ご助言などをいただき、地域の環境パートナーシップの形成に寄与していただくことが重要であると考えております。

本日の研修が、皆さまにとって少しでもお役に立ち、各地域において、持続可能な社会づくりの輪が広がっていくことを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

■10:10～12:00【基調講演】

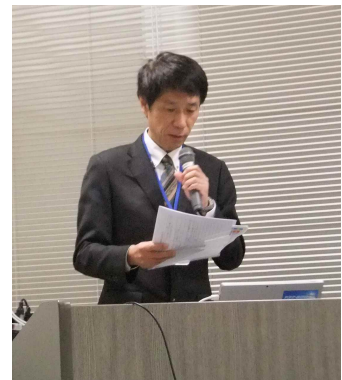
基調講演（一般公開）

「SDGs って何だろう？～なぜ、国や自治体・企業は、取り組もうとしているのか～」

札幌市環境局環境都市推進部環境計画課調査担当係長 佐竹輝洋様

○司会 改めましておはようございます。北海道環境カウンセラー協会の江本でございます。

皆さまのお手元のカラーの資料が、今回の基調講演の資料になります。今回は札幌市環境局環境都市推進部環境計画課調査担当係長の佐竹様より「SDGs って何だろう？～なぜ、国や自治体・企業は、取り組もうとしているのか～」という演題で、ご講演をお願いいたします。では佐竹様、よろしくお願いいたします。



○佐竹 皆さんおはようございます。ただ今紹介に預かりました、札幌市環境局環境都市推進部環境計画課の佐竹と申します。本日はよろしくお願いいたします。

そもそも何故、市役所の人間が SDGs、国連の目標について話をするのかというところで、少し自己紹介を含めながらお話させていただきます。札幌市の環境局に、2004 年に就職して、そこからずっと環境対策を担当しておりまして、現在、第 2 次札幌市環境基本計画という計画を作っています。その計画自体は来年度 2018 年度から 2030 年度までの札幌市の環境ということで、温暖化や廃棄物、生物多様性といったものの総合計画を作っているのですが、その中にこの SDGs を位置付けていこう、国連、世界の目指す目標に、札幌市も取り組んでいくんだ、計画に位置付けてこれから進めていこうということで、この SDGs について勉強もしつつ、更にはどう活用できるのかも含めていま色々取り組んでいるということもありまして、今回お話させていただくこととなりました。

国連持続可能な開発目標（SDGs）には 17 のゴールがある

この「国連持続可能な開発目標（SDGs）」は、2015 年の 9 月に国連で採択されたもので、日本語の文書の名前としては「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」というもので、その中にこの目標が位置付けられています。内容は、1 番から 17 番までのアイコンがありますが、17 個のゴール。それから 169 個のターゲットというものがあります。別紙に、外務省が作った国際協力 NGO のためのガイドブックの後ろに付いている参考資料を付けさせていただいております。目標が全部で 17 個、その左側にターゲット、これがいわゆる取り組みですね。どういう具体的な取り組みをしていくのか。更にその右側、指標と書いてあるのですが、ではそのターゲットに対してそれぞれの国ないしはその自治体が、それを評価していくための指標も作られていまして、これが全部で 230 個あります。

SDGs 採択までの経緯

持続可能な社会を作っていこうという形で世界で議論され始めるきっかけとなったのは、1992 年に開かれた「環境と開発に関する国際連合会議」いわゆる「地球サミット」です。こちらで「アジェンダ 21」というものが合意されました。各地方などでもローカルアジェンダを作ろうという動きが生まれたのがこの会議です。特にこの会議は、気候変動枠組条約、生物多様性条約の提起、署名の開始というものが始まったということで、地球規模での課題に世界中が取り組もうというきっかけとなりました。2000 年に国連のミレニアム・サミットが国連本部で開催され、世界全体でこの持続可能な社会のために取り組んでいこうと、「ミレニアム開発宣言」が採択されました。その後、2000 年から 2015 年までの「ミレニアム開発目標」（MDGs）というものができました。

2002 年に「リオ+10」、リオデジャネイロで開かれた地球サミットから 10 年後の会議。またその 10 年後に「リオ+20」、国連持続可能な開発会議が開かれて、ミレニアム開発目標の次の目標、今回の SDGs の設定について議論が始まりました。それ以外に持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラムの創設などがあり、世界全体で議論が行われて、2015 年の会議において SDGs が採択されたという歴史があります。

SDGs 採択の背景

今回その SDGs が採択された背景は、3 つ。まず 1 つが、先ほどお話しした 2000 年に採択されたミレニアム開発目標（以下、MDGs）。この MDGs は、どちらかというと途上国向けに作られた目標で、全部で 8 つの目標と 21 のターゲットで構成されていました。貧困や飢餓を無くそうという目標、ジェンダー目標などもあった取り組みだったので、先進国の方では認識が薄い状態でした。さらに、この MDGs によって、例えば貧困を無くそうという目標については、この 2000 年頃から今まで確かに貧困は少なくなりましたが、逆に課題として出たのはその貧困の差です。富裕層がよりお金を持つようになって、貧しい人たちはどんどん貧しくなるという格差が出来てしまったというような背景もあります。

二つめが地球システムの限界ということ。気候変動の問題は、世界全体の平均気温が 0.8℃と、1℃近く上がっているということ。その影響で、台風やハリケーンなどの被害が既に出始めているということ。また、現在の急速な人口増加、いま世界で毎年約 8,300 万人ほど人口が増えてい

と言われています。現在 76 億人の世界人口がさらに 2030 年には 86 億人、2050 年には 98 億人となっていくと予想される中、食料や資源をどうやって地球 1 個で持ち堪えていくのかというようなことがあって、これはもう世界全体で取り組まなければいけないだろうということ。

三つめは現代社会における対応の必要性ということで、格差の拡大もありますが、個人の情報伝達速度、量の劇的変化。特にインターネットなどは世界全体で約 30 億人ユーザーがいると言われていますし、携帯電話に至っては途上国を含めて世界全体に行き渡っていて、約 70 億人の利用者がいると言われています。とにかく、個人がたくさんの情報を気軽に得ることが出来るという時代において、どうやってこの世界を守っていかなければならないかということで、こういった目標が掲げられています。

先ほど貧困の格差という話をしましたが、世界全体の富・資産のうち、約 8 割は世界の高所得者の 20% で分配されていると言われています。そうすると、一番下の 20% の人たちというのが、先ほど目標に出てきた 1 日 1.25 ドル、1 日 150 円にも満たない金額で生活しているというような人たち、アフリカ地域で暮らす人たちの貧困が、まだ問題として残っているという現状があります。こういった格差が出てきているということ。



持続可能って何だろう

サステナブル (sustainable)、持続可能とは、辞書で引くと「環境や社会・経済などが将来にわたって適切に維持・保全され発展できること」という形で出てきます。英語で、サステイン (sustain) 維持するという言葉と、エイブル (able) 何々出来るという言葉が合わさって出来たのが、この持続可能という言葉です。更にそのサステインを分解すると、サス (sus) は下にという意味で、サスペンションなどのサス。テイン (tain) というのは掴んで離さないという意味で、下から支えて踏ん張って離れないということで、例えば家の柱や橋、そういったイメージを持ていただければと思います。とにかく何かをずっと継続するというよりは、支えていく。世界全体を支えていくというのが持続可能という意味に含まれている言葉です。

一方、1970 年を基準とした時の淡水域、陸、海に棲んでいる生き物の種類の変化から、世界全体の様子を見ていくと、生き物が絶滅しているという状態があります。地球規模で考えた時に、もうひとつエコロジカル・フットプリントという考え方があるのですが、地球全体で生物が生きられるキャパシティーというのがあって、人間が出している二酸化炭素を地球が木や海や土で吸収出来るキャパシティーを、今の生活はとっくに超えてしまっている。大体今、地球 1.5 個分で今の人口を維持している。先ほど言ったような人口増加というものもあって、これから地球はどうなっていくのかと考えていかなければいけないという時代に来ているという問題があります。

SDGs の特徴

そこで、この SDGs というものが作られたのですが、特徴を少しお話したいと思います。まず、2030 年に向けた世界の目標です。MDGs の課題を踏まえて、先進国を含む全ての国が参加・適応さ

れるものとなっていますので、エネルギーや気候変動、それ以外にも持続可能な街づくりなどといった目標がこの SDGs の中には入っています。その理念としては「誰も取り残さない No one will be left behind」という考え方です。これも MDGs で貧困の格差が出来てしまったという課題を踏まえています。「全ての人々が同じ目標に向かって世界全体を持続可能にしていきます」という目標も掲げられています。もうひとつが5つの“P”。「人間、地球、繁栄、平和、パートナーシップ」という理念を持って、世界全体を持続可能にしていきたいと思いますという考え方です。

また、もうひとつ、バックキャストिंगによる目標設定というものがあります。通常の世界では、ほとんどが積み上げ目標です。パリ協定も、各国に2020年以降の温暖化対策の目標を作って、それを提出してくださいということで各国に任せています。各国はじゃあこれくらいなら出来るかな、日本だったら2013年比26%行けるかなみたいなものを出す。パリ協定はそれを全部かき集めたとしても、まだ今世紀末までに気温上昇を2℃以内に抑えるという目標に達していないという状況です。積み上げだとなかなかうまく行かないということもあって、SDGsは、まず2030年の目標を設定してしまっています。そこに対して、とにかくいいから各国が頑張れということで、設定されています。ですから、この中には結構過激な目標、例えばいま世界全体で問題になっているフードロス、食品ロスを2030年までに半分にするというような目標や、マラリアという病気を撲滅するということまで言っています。それはどこにも根拠は無いのです。どこにも根拠は無いけれども、とにかくやるぞということで設定している目標です。

4番目としては、計画の検討や政策ツールとして通用させることが出来るというもの。これはあとで説明させていただきます。

SDGs の特徴：色々な連鎖、連環をもって同時達成で解決していこう

この SDGs は 17 個も目標があって複雑で、なぜこんなにバラバラとしているのか。今まで環境や経済、社会というものが別々に考えられてきました。例えば温暖化対策を進めると、それに対して企業のコストがかかってしまって、経済がどんどん収縮してしまうのではないかと言われてきました。けれども、最近は CO₂ を削減しても GDP などが伸びて、経済成長は伸びていきますというような、経済と環境の統合というものが見られるようになってきました。そういった考え方で、それぞれ環境、経済、社会というものを一緒にものとして考えていこうというような仕組みになっています。特にその課題の連鎖、この現代社会の課題は複雑に絡み合っていて、例えばいま気候変動の影響がどんどん大きくなり、気温が上昇していて、そうすると水害や農作物の不作といったものが起きてくる。途上国では、作物が取れない、洪水があるということで、どんどん貧困が悪化してしまう、雇用の喪失が出てしまう。シリアの難民問題の一部は気候変動が影響しているという分析もありますが、そういった内戦やテロの増加が起きる。そしてまたさらに貧困の拡大、格差拡大が起きます。こんな所にもう住んでいられないよと、移民が増加してくる。移民は、貧しい土地から都市の方に移っていく。都市の人口増加が起きると、やはりそこで豊かな生活をしたいということでエネルギー消費が拡大する。そうすると気候変動に影響が出てしまうというような、負の連鎖が起きているという状態です。これを解決するためにたくさんの目標を作って、さらにそれを連鎖させて世界全体で色々な連鎖、連環をもって解決していこうというのが、この SDGs の特徴です。

例えばフードロス。小売り消費レベルにおける世界全体の 1 人当たりの食品の廃棄を半減させよう、食品ロスを減少させよう。これを達成するには、高いレベルの経済生産性。特に食品のロスは食べ残しだけでなく、要は無駄に作ってしまう、そこにやはりコストがかかってくるので、出来るだけ効率的に、お金を投資することなく需要と供給のバランスをうまく取って廃棄を少なくすれば、そこにかかるコストが削減されて、より新たな投資に使えるということで経済生産性も向上します。あとは気候変動です。廃棄されてしまう食べ物が燃やされて CO₂ が出ることを解決することもできる。さらには、上手く需要と供給のバランスが取れて先進国、途上国すべてにちゃんと資源、食品が渡るようにできれば、飢餓の撲滅にも繋がります。そういった食品半減を世界全体でやっていこうという、それに対して皆さんが知識を持たなければいけない。まず教育の方もしっかりとやっていかなければいけない。ここにもパートナーシップ、インフラの改善などありますが、色々な物事にそういった 1 つの目標が様々なゴールに関連して行って、同時達成を目指すことが出来るというのが、この SDGs の最も大きな特徴だと思います。

SDGs の特徴：指標によって、取り組みが評価できる

もうひとつ SDGs の特徴として、17 のゴール 160 のターゲット、そして 230 の指標（インディケーター）という三層構造になっています。この指標があるからこそ、各国や各企業の持続的な取り組みを評価することができるようになります。こちらは国連の関連機関とドイツのベルテルスマン財団が、2016 年からこの SDGs インデックス&ダッシュボードで、先ほどの世界百数十カ国の評価をしています。2017 年日本は 11 位でした。まあまあいい感じですね。ただしこれは、昨年 2016 年は 18 位だったので、そこからポイントを上げてきたということになります。先ほどの 17 のゴールと指標をもって、どこが強いどこが弱いみたいなものを評価しています。特に日本は、教育や経済というのは緑で、大体クリアしていますよとなっていますが、例えば 5 番のジェンダー平等や、資源、持続可能な生産と消費、気候変動といったところがまだ来ていませんよという、強み弱みが見えてくる。特にジェンダー平等は、みなさんやっぱりなと思うかもしれませんが、色々な評価項目があって、例えば国会議員に占める女性議員の割合みたいなものも、この評価の 1 つに入りますが、先進国の中でも日本は最低レベルです。因みに、やはり北欧が上の方を占めているのですが、1 位がスウェーデンとなっています。

まず先に、国がなぜ取り組むのかというのは、まさに先ほどの評価の部分が 1 つあります。他にも理由があるので後でご説明しますが、日本においてもやはりこの SDGs 達成に向けて取り組んでいこうという動きがあります。SDGs は 2015 年に採択されましたが、実は日本は取り組むのが少しゆっくりだったのです。2016 年 12 月に国としての実施指針を策定して、翌年 6 月にどういった取り組み状況になっているのか報告が行われている状態です。SDGs 実施指針は国が取り組もうとしている指針になり、8 つの優先課題を設定しています。まず①があらゆる人々の活躍の推進、②が健康・長寿の達成、③が経済成長市場の創出、④が持続可能で強靱な国土、インフラ整備、⑤が環境で省エネルギー、再生可能エネルギー、気候変動、循環型社会。それと、生物多様性、森林保全。あとはパートナーシップ的なところですね、平和や安全、安心社会の実現。そして SDGs 実施推進の体制と手段。こういった優先課題に対してしっかり取り組んでいこうと、関係省庁からとにかくこれに絡むものの施策を出すようにということで、全部で 140 個の施策を具体

的な指標と共に掲げて、2030 年までにどうやって取り組んでいくかという目標立てをしています。

各国がそれぞれどんな取り組みをしているのかを発表する場、「持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム」という会議があります。これは毎年国務大臣レベルの人たちが集まって、取り組みをプレゼンする場です。2017 年 7 月 10 日から 19 日にかけてニューヨークの国連本部で開催され、日本は岸田外務大臣がプレゼンをしました。そこで出した日本のコンセプトが官民パートナーシップ、パブリック・プライベート・アクション・フォー・パートナーシップ、略して PPAP ですね。ペンパイナップルアップルペンに掛けて、実際ピコ太郎が国連まで岸田外務大臣と行ったんですよ（笑）。「パブリック・プライベート・アクション・フォー・パートナーシップピコ太郎」と YouTube で検索したら、SDGs のペンパイナップルの曲が流れますので、ぜひこれを見ていただければと思います。

企業も率先して SDGs に取り組んでいる

あともうひとつが、企業に向けた取り組み。今までは国レベルの取り組みですが、企業の方も率先して取り組んでいます。GRI という組織と国連グローバル・コンパクトという企業などが集まった組織が、SDGs Compass という企業向けの指針を作っていて、5 つのステップで SDGs を企業経営へ統合していく方法を解説しています。

まずは SDGs を理解しよう、企業の中で優先課題を決定しよう、目標を設定しよう、それを企業へ統合していこう、報告とコミュニケーションを行って進捗状況を把握することで、さらにまた課題の設定などをしていくという PDCA サイクルを回していこうというものになっています。国連グローバル・コンパクトは、企業に対してその戦略や事業を進めていき、国連と企業の統合をはかって、世界全体を持続可能なものにしていこうという考え方で集められた組織で、全部で 163 カ国の 9,000 社を超える企業が参加しています。企業の集まりでいうと世界最大の団体、イニシアチブという言い方をしますが、団体となっています。

では、この SDGs を企業は理解しているのだろうかということで取ったのが、日本での企業の認知度です。先ほどの国連グローバル・コンパクトの下部組織である一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンという日本の組織と、公益財団法人地球環境戦略機関 (IGES) がアンケート調査を行ったものなのですが、日本でグローバル・コンパクトに参加している企業 233 社や団体、一部の自治体にアンケートを取りました。国連に関わっているということもあって、回答企業の 70%は売上高 1 千億円以上の結構大きな企業ではありますが、そういった企業に組織における SDGs の認知度を聞いてみたところ、昨年 2016 年にとったアンケートで 84%の CSR 担当はもう定着しているよと答えています。2015 年に採択された当時はまだ 61%だったのですが、それが 2016 年には一気に伸びてきています。経営層でも意外と認識しています。経営層については大体 3 割はこの SDGs について認識して取り組もうとしている。ただ、中間管理職やステークホルダーに定着しているかというところはまだ定着していないかなという状態です。この SDGs をどう認識しているかということで考えていくと、一番高いのがその持続可能性に関わる企業価値の向上として重要、もしくは、これを新たなビジネスチャンスとしても捉えているというのが、グローバル・コンパクトの会員からの回答。非会員からもアンケートをとっているのですが、やはりそこよりはグローバル・コンパクトに参加している企業の方が意識が高くなっているという

ところです。

ここからいくつか事例をご紹介します、そのあと質疑の方に移ろうと思っています。企業の取り組み一つめが、SOMPO ホールディングスの事例で、こちらは結構昔から CSR について、かなり活発に活動されています。特に気候変動によって様々な災害が起きてしまうと、損害保険会社なのでどんどん保障をしていかなければいけないということで、もう必死ですよ。気候変動が起きてしまうから保険代を高くしなければ、そのようなことを考えていかなければいけない組織なので CSR をかなり率先してやっていて、この SDGs やパリ協定などの動向を踏まえて、会社の「グループ CSR 重点課題」を SDGs の考え方を使いながら研修を行って社内に定着をさせていこう、もしくは経営の中でも使っていこうと考えている会社です。

もう一つが住友化学株式会社です。様々な化学製品などを作っている会社ですが、こちらも企業統合、社内への統治ということで SDGs を使っています。こちらは「サステナブルツリー」というのが特徴的な取り組みなのですが、全グループ会社を入れると数万人と、かなりの数になる社員に対して、自分の企業活動が SDGs にどう繋がっていくかということを WEB で投稿させました。2016 年の 6 月から 10 月に実施したのですが、すごいですね。6,005 件の応募があって、実は自分がやっていることは持続可能なんですよということを一人ひとりに意識してもらい経営層に届けることで、それぞれの社員の考えることを推進して、社員のオーナーシップの強化にも繋がっているという取り組みを行っています。

実は北海道の企業でも SDGs に取り組んで考え方を取り入れてるところがありまして、びっくりドンキーを経営している株式会社アレフさんも、昔からかなり CSR や環境配慮について取り組んでいます。こちらは今年出した環境報告書、CSR 報告書ですが、アレフがびっくりドンキーの経営の中で、原料を調達します、それを輸送します、お店で使います、食べ残しや調理くずが出てしまったらそれをリサイクルしますという環境配慮の取り組みを SDGs で考えると、どこに位置付けられるのかということで取り組んでいます。特に企業として優先的に取り組まなければいけないものを設定して、水を守ろう、それから作る責任、使う責任、持続可能な生産と消費をしていく、気候変動に具体的な取り組みをしていこうということに活用しているという事例です。

前半戦最後です。日本経済団体連合会（経団連）が、7 年ぶりに「企業行動憲章」を改定しました。先月 11 月に改定したのですが、その中に経団連としても SDGs に取り組んでいきますという Society 5.0、経団連が目指す IoT や AI といった日本の技術を活用してどんどん技術革新を起こしていこうという考え方があるのですが、それを SDGs にも繋げていって企業全体としても活性に向けて取り組んでいこうという取り組みを行っています。最初に SOMPO ホールディングス、住友化学、アレフと 3 つの事例を出しましたが、この活用の仕方としては、最初の 2 つは企業統治。社員の中に持続可能性という考え方を取り入れて、企業の経営そのものを持続可能なものにしていこうというもの。アレフさんは CSR 報告書の中に記載していましたが、あれはどちらかというと、自分たちがやっている環境活動が、ただ「やってますよ、やってますよ」と言っても一般の方には伝わりにくいところがあって、それを SDGs という 2030 年までに世界全体がこういう目標立てています、それに対して今自分はこういう取り組みをしているんだという、周囲に対する立ち位置を認識させるために、今回の CSR 報告書の中で取り入れたという話を聞きました。

前半戦はここまでということで、ここで何かご質問などありましたら受け付けたいと思います。

〈質問者〉

10 ページ、11 ページのところで、昨年度と比べて日本が 18 位から 11 位に上がっています。僕の感覚では、上がっている背景が全く理解できない、むしろ下がっているのではないかと思っています。これはどこが、国連が判定しているのですか？判断基準は別のところですか？

〈佐竹氏〉

まず上がっている背景ですけれども、経済成長や温室効果ガス排出量など色々要素があって、上がる部分もあれば下がる部分もあるというのが実際のところですが、これは相対評価になるので他の国々とも比べた結果、11 位になりましたと。一応評価としては基本として使われているのがこの 230 の指標です。こちらの指標をベースにして評価をしまして、評価をしているのは、国連の関係機関で SDSN というドイツの財団です。国連は色々な組織があって、国連の中で開発環境計画などは色々な組織の中で行っていて、今回はこの 2 つの組織が一緒になって国を評価してみようということで出しているものとなっています。

〈質問者〉

横浜市の上場企業から参りました。非常に分かり易い内容で、色々な中にストンと落ちるような説明で、来た甲斐があるなと思うのですが、実は国連という言葉を知ると、どうしても一方でグローバルスタンダードという言葉が頭に浮かんで参ります。代表的なものとしては国際標準化機構の発行しているようなグローバルスタンダードがその一例だと思うのですが、実は CSR 関係については国際標準化機構も ISO26000 という指針を発行しておられまして、そういった世界共通のスタンダードと今回の SDGs との繋がり、関係というのはどうなんですか？

〈佐竹氏〉

まずは ISO などのスタンダードについては、世界全体で基準を作ろうという考え方かと思います。今回の SDGs については、目標があってそれに対して世界全体で取り組もうということで、目標設定はされているのですが、それが基準かというとは実はそうではなくて、例えば貧困みたいなものを見ていくと、日本では日本的な貧困の課題はあるにせよ 1.25 ドル未満みたいな人たちはあまりいないという中で、この SDGs は取りあえず世界全体ではこんな目標を立てるけれども、各国もしくは各企業にはその考え方を応用して伸ばせるところは伸ばす、足りないところは頑張る、というような基準といいますか指針みたいなものとして捉えていただいていいのかなと思います。ISO などベースのここは最低限守りなさいみたいなものに対して、SDGs は上の方にこういう目標を定めたので皆で頑張ろうというような、性質の違いはあるかなと思っております。

〈質問者〉

今の答えと少し関係があるのですが、各国で頑張るとますます世界の貧困も差が開きますよね。この最終ゴールに到る時には、富める国から貧困地域へ、例えば食料もそうです、7 億 8 億食料の無い国があるわけですが、そこに行くようになる方向に行くのでしょうか。水も無いところもいっぱいあるわけですね。

〈佐竹氏〉

そうですね。そこは SDGs の中でも結構重要なもので、特に経済成長だけを考えてしまうとやはり貧困の格差がどんどん出て来ると思います。ただその一方で、例えばゴールで言うと 12 番の「作る責任、使う責任」というキーワード、目標があります。この中には生産から生産調達、それから加工、原料の加工やそういったところに関して、きちんとエネルギーないしは生産者の雇用や賃金の確保といったものを考えていこうというものがあります。特に最近だとフェアトレードみたいなものを札幌市は進めようとしています、途上国の人たちが安い賃金で働くところから調達するよりは、そこに対してきちんとした賃金をお支払いして、正しい生産をしていこう。途上国だけではなくて先進国も取り組みなさいというのは、まさにそういったところに考え方があって、今まで途上国のことをあまり考えてこないで生産を行ってきたものを、ちゃんと途上国のこと考えながら取り組もうということで SDGs は設定されているので、世界全体を底上げしていこうという目標になっています。そういう考え方で成り立っていて、その企業とか国の取り組みの中で評価をされていく。やはり評価されるとなると国や企業は取り組まなければいけないと思いますので、そういったものも意識付けにはなるのかなと思っています。

〈質問者〉

先ほどのお話の中で、関連した連鎖。国連の広報では包摂的とありますが、それはうんと貧困な国にも連鎖していく考え方と、とっていますか？

〈佐竹〉

そうですね、貧困の国も含めて連鎖、世界全体をグローバルに考えていこうという目標となっています。日本ではそういった取り組みもありますが、やはり世界の先進国としての責任ということで、ODA 予算などそういったところにも、この SDGs の考え方を反映させながら進めていくという形になっています。

〈質問者〉

もう 1 点。先ほどの話にもありましたが、SDGs の 17 のゴール、これはとても立派なことだと思います。その一方で、その右隣の 5 ページ、富のワイングラスですが、ここのトップクラスの人たちの利害と相反するテーマですよね。国連などもそうですが、リーダー層というのはこのトップクラスにいるわけですが、彼らがどこまで本気でこの 17 のゴールを目指しているのか。ただのアリバイづくりなのか、それとも本当にこういうワイングラスは持続可能性がないし、トリクルダウンで下げていくことによって、実はもっとみんなが豊かになれるよというところを意図していることなのか、その辺りの背景を。

〈佐竹〉

後段でお話をしようと思っていた、いい質問をいただきました。企業や富裕層のお金を持っている人たちが、これに果たして本気で取り組むのかというところですが、取り組まざるを得ない仕組みが今作られようとしています。今から後半に入って、お話しようと思います。

なぜ SDGs に取り組むのか

一応 4 つ理由を作ってみました。まず 1 つが、国際的なルール作りへの関与に関するインセンティブになる。これも少し後で解説しますが、国際的なルールを作っていくためには誰かが、国連などが決めるわけですが、利害関係のある人にちゃんとヒアリングして、あまり変なものを作らないようにしようということで、ステークホルダーとの対話というのも必ず必要になってきます。そのステークホルダーに選ばれるためには、自分の国もしくは自社の国際的な、国連くらいに物を言えるプレゼンス、存在感というものがやはり必要になってきます。そこでこの SDGs に取り組んでいるということが重要になってくる、というのが一つあります。

もう一つが、国民や消費者への取り組みの明確化と巻き込み。これはもう国・企業・自治体全部に言えると思いますが、先ほどのアレフさんの事例もそうですが、SDGs を活用することで、自らの立ち位置を伝えることができる。世界全体の目標に対して、自分はちゃんと貢献してますよというのを PR することができる。そうすると、そういったものに関心の高い国民や消費者に対しての、訴求力の向上に繋がるというのがあります。

もう一つ、3 番目。これもあとで少し解説しますが、投資家対策です。これは特に企業ですね。これも後でご説明しますが、ESG 投資。今、世界の流れとして持続可能な社会づくりを行う事業活動を行う企業に対する投資がどんどん増えています。それに対して、SDGs を使って格付けをしていこうというような流れも実は出来ていて、企業はこういう投資家がお金を出さないよとなると、もう必死ですからね。そういう投資家対策として、この SDGs に取り組んでいるということがあります。

あとはパートナーシップ形成、政策提言、補助金、補助金の獲得、これは自治体や市民団体ですね。最近、国の方でどんどん SDGs も活用していこう、自治体、企業もやっていこうという政策の流れになっていますので、補助金の条件になってきたりするんですよ。環境省でも、地球環境基金の来年度の申請は SDGs を使いなさいとなっていますし、SDGs をテーマにすると横の繋がりが、パートナーシップがすごく組み易い。SDGs を一緒にやろうよと言うだけで手を組める、そういったものにも使えます。あとはこの SDGs によって強み・弱み、先ほどの国の評価ではないですが、自治体や団体の強いところ弱いところが見えてきますので、そういったものに対して市民団体などは政策提言に活用したりというようなことが出来るかなと思っています。

1 番目に出てきたルール作りについて、少し解説しようと思います。外国などの政府に対するルール形成プロセスの考え方、経済産業省が外国企業の国際ルール形成事例の調査というのをやっていて、デトロイト・トーマツ・コンサルティングが調べたものですが、国連や外国のルールを作る時に、まずはこういったルールを作ろうかなという話をして、その後それを具体的な事業などに落とし込んでいくルールの設計をする。この設計でいいだろうかというのをステークホルダーとのコンセンサスを形成する。ここが結構重要です。あとは、適切なチャンネルを通じて交渉を実行していくというようなプロセスを組んで、色々なルールが作られています。

一つ事例を出させていただくと、2007 年に出来て 10 年以上経つ REACH 規制（EU の化学物質に関する総合的な登録・評価・認可・制限制度）を導入した時に、ダウ・ケミカルという化学製薬品などを作っている会社が、EU に対して働きかけているという事例です。なぜ働きかけるのかというと、こういう化学物質を扱っている会社が、どれだけ作って、どれだけ運んで、とれだけ使

われたか全部把握しなければいけないとなると、それは企業のコストなのでお金がかかってしまう。お金がかかってしまうので、ダウ・ケミカルとしては、出来ればそんな規制は入れて欲しくないですね。入れて欲しくないのですが、格別管理しなければと EU が思っていることに対して、入れるな入れるな、そんな規制するなどと言っても、EU は聞いてくれないですよ。それでダウ・ケミカルは何を考えたかという、こういう規制にしたらいんじゃないですかと、私のところではこんなことが出来ますよというのを、ダウのアメリカ本社から、ダウヨーロッパを介して EU に働きかけたのです。そういった働きかけがあると EU も「こういう規制ならなんとか企業で受け付けてくれるのか」ということを考えてくれる。そういったものを EU やアメリカの政府も使って、どんどん EU に対して働きかけた結果、REACH 規制による規制の対象から、自社売上の 50%前後を占めてたポリマーというものが除外された。「ポリマー以外はいいいよ、どんどん規制してください。でもポリマーだけはちょっと大変なのでやめてくださいね」みたいなことを働きかけた結果、その部分のコストが増えるのを回避した事例のひとつです。これを言うためには、まずそもそも EU に対して物言える会社でなければいけないですよ。物言える会社になるためには、例えば今回でも持続可能な取り組みを行っている、こうした温暖化対策を行っている、そういったきちんと社会的責任を果たしている会社ではないと EU など国の機関は聞きにくいですよ。悪いことをやっている会社の言うこと聞いているのかあいつは、みたいなことで言われてしまうので、やはりきちんとした社会的責任を守っている、そういった会社のことだから聞くんですよというものになってくるので、SDGs にちゃんと取り組んでいます、途上国のことも考えてちゃんと社会的責任を果たしてますよと企業が言うことで、色々な国の機関などに働きかけることができるというのが、大きい抑制力ではないですけど、そういった力の源となっているのかなと。それが更に今回の SDGs が明確化されたというのが大きいと思います。今まであって、さっきのただ「やりますよ」というのではなく、ちゃんと取り組んでるんですよというのを見せることが出来るのが大きいかなと思います。

もう一つが、先ほど出てきた ESG 投資というものです。こちらの ESG というのは、環境 Environment、社会 Social、ガバナンス Governance 企業統治の頭文字を合わせた言葉で、2006 年に国連のアナン事務総長が機関投資家に対して、この ESG を投資プロセスに組み入れる責任投資原則というものを提唱しました。これを提唱したことで、機関投資家や銀行がこの ESG という視点を持ってその企業を評価し始めたのです。その企業がちゃんと環境、社会、ガバナンスに対して持続可能な経営を行っているかどうか評価して、そういった企業に対して投資をしますよという基準が作られました。そうすると、意外とこれが今どんどん投資が伸びていて、SRI 社会的責任投資と言われるのですが、世界全体での投資額が大体 1 京 1 千兆円、兆の次の単位、円でいうとその位の金額になるのですが、その 4 分の 1 の 2,500 兆円はこの ESG に投資されているのです。更にその割合は伸びています。こういう動きがあると、ではやはり ESG 投資に対してちゃんとポイントを取れる会社じゃなきゃいけないだろう、その為にはこういった SDGs にもきちんと取り組んでいくことが必要だと。その次のページになりますが、この ESG 投資に対して、更にこの SDGs の視点も使っていこうということで、これも国連関係で国連環境計画金融イニシアチブが、世界の主要金融機関 19 社と共に、SDGs の達成に向けて金融機関が積極的な投融資を行うための原則を今年の 1 月に制定しています。日本の銀行は入っていないのですが、全部で 19 社の銀行が

入っています。その資産総額が 6.6 兆アメリカドル、約 740 兆円持っている銀行が、SDGs に取り組んでいる会社でないと投資しないよという動きになっていると、それは企業としては取り組まなければいけないですね。日本の方でも動きがあって、日本証券業協会の諮問機関として、証券業界における SDGs の推進に関する懇談会を 9 月に設置しています。日本の場合はまだこれからですが、そういった証券会社としてもどんどんこの SDGs に取り組んでいこうという動きが出来ているということです。先ほどの質問の回答にもなるのですが、口だけで「やってます、やってます」だけでは、お金が、投資が下りてこない時代に今なってきたというものが現状なのかなと思っています。

自治体と SDGs

自治体についても少しお話させていただきます。2015 年に国連が採択して、ようやく昨年から国の方が動き出しました。国が動き出すと次はさあ自治体だという話になっていきます。各自治体に対して今、国が考えているのが、色々な計画、様々な街作り計画や環境系の計画や方針など、そういったものを作る時には SDGs の要素を最大限反映することを奨励しますよということで、まず 2016 年の 12 月にできた国の SDGs 実施指針に掲げられました。その次の動きとしては、内閣府でやっている環境未来都市や環境モデル都市という制度があって、環境に対して率先して取り組んでいる自治体を未来都市やモデル都市に指定して、どんどん国としても応援していきますよというものです。環境未来都市は、北海道では下川町が、環境モデル都市は下川町の他にニセコ町、帯広市が選ばれています。残念ながら札幌市は選ばれていないのですが、次の構想として実は SDGs 未来都市というのがあって、これは来年度の予算要求中のものですが、内閣府がいま財務省と折衝してそろそろ内示が出ていると思いますが、この SDGs 未来都市に選ばれた自治体に対して、来年度 1 自治体あたり 1 億円定額補助しますよという予算も要求されています。やはりこれから自治体はどんどんこの SDGs というものを取り入れていかないと、補助金や政策などがやりにくくなるだろうと思っています。

最初の自己紹介でもしました、1998 年に作られた 20 年計画の札幌市の環境基本計画が、ちょうど今年度終了しますので、今、次の計画を作っています。それが 2030 年に向けた計画となっていて、体系としては掲げているのものは色々あるのですが、将来上実現するための 5 つの柱として、①健康で安全な環境、いわゆる公害みたいなものを起こしませんよというのをベースにしながら、②低炭素社会、③循環型社会、④自然共生社会に向けて、札幌市としても率先して取り組んでいきますと。あとは⑤環境教育や産業振興、そういったものにも取り組んでいきますという計画を作っています。その中で SDGs との関係でこういった取り組みを推進していくと、どのゴールに繋がっていくのかというのを分析したり、先ほどの 5 つの柱というもののの中で色々な目標を掲げています。例えば大気環境や騒音や河川などにおける環境基準を 2030 年までに 100%達成しますよという目標を、案ですが今作っていますが、その中に関連する SDGs のターゲットの考え方を引用するというような使い方をしています。ただ計画の中に位置づけますよだけではなかなか進まないですし、普及もしていかないとということもあって、あわせて普及もしていこうということで、今年 6 月に、国の SDGs 推進の円卓会議のメンバーにもなっている慶應義塾大学の蟹江先生や、うちの市長も登壇して、北大と環境省と一緒にシンポジウムを開催しました。市長に

は、SDGs と持続可能な街づくりについて語ってもらいました。

また、小学校教育の中でも入れていこうということで、毎年その年の新しい 1 年生・3 年生・5 年生に配布して 2 年間ずつ使ってもらい、環境局で作っている小学生向けの環境副教材の中で SDGs の紹介をしています。ちなみに実は SDGs はもう既に今年の教科書から中学 3 年生の家庭科や公民に入ってきています。すごいなと思いますが、パリ協定ですら教科書に書いてある時代ですからね今、びっくりします。子どもからの教育というのが大事だと思ったり、先ほど紹介した環境未来都市に選ばれている下川町も、実は今、総合計画の中で SDGs で位置づけていこうという動きがあって、SDGs 仲間になろうよといって連携した取り組みをするということでエシカル消費や倫理的な消費、フェアトレードというものから考えるワークショップを、札幌から十数人下川町に行って一緒に考えるという機会を作ったり。そのフェアトレードについては、札幌フェアトレードタウン戦略会議という市民団体レベルで集まって考え、札幌をフェアトレードタウンにしようという動きがあって、それも先ほどの目標 12 の持続可能な生産消費というものに繋がるということで、札幌市としても参画して応援しているというような状態です。

こういった取り組みをしていくと、やはり日本の中でもまだ SDGs に対して取り組んでいる自治体は数自治体しかないですね。札幌市の他だと、北九州市は札幌と同じような動きをしていますし、滋賀県は県知事が SDGs をやるぞと言ってます。そういった取り組みをしていくと、先ほどピコ太郎が出てきた今年の 7 月に開催した持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラムの報告書の中で、札幌市は頑張っていますよと書いてもらったり、ちょっとピコ太郎に負けてしまったのですが、札幌市長のメッセージが国連の場で流れたり、そういった PR にも使っていけるかなと思っています。

持続可能な国、都市になることの波及効果ということで、これは HIS のホームページでたまたま見つけてビックリしたのですが、『SDGs ランキング 1 位のスウェーデンに行って、持続可能な社会と暮らしを体験する 8 日間ツアー』というスタディーツアーなのですが「マジか」と思えますね。こんなもので使ってくれるんだとちょっとビックリした事例ですが、26 万 8 千円から 38 万 8 千円です。もし皆さんよろしければ。というような、実はこんな効果もあつたりします。

講義のまとめ

まず前半戦の纏めにいきます。まず SDGs、これは 2030 年に向けた世界の目標です。よく、世界の共通言語となったと言われます。やはりこのアイコンがあるだけで、国連もそうですが、世界どの国どの地域に行っても、ああ SDGs をやっているんだねと言われるようになってきます。まだ今、認知度は遅れていても 2030 年までありますので、そういう時代になってきている。誰も取り残さないということを誓って、先進国、途上国に限らず、全ての国、企業、自治体、市民団体、個人を含む主体が参加をして、達成を目指すものという性格です。また、関連や連鎖などみたいなものがありましたが、環境が、経済、社会というものに対する課題を同時に解決する統合的な目標、17 のゴールが他のゴールとも繋がっていく連鎖的な要素を持っていく仕組みです。あとは持続可能な社会の実現に向けた取り組み、行動も「見える化」。先ほど、立ち位置という話をしましたが、これにどういう取り組みをして、それがどう繋がっていくのか、世界の目標にどう繋がっていくのかということが「見える化」できる仕組み。最後に、取り組む思惑というものも色々

あると思います。国際的なルール作りに参画したり、やっぱりお金が欲しいね、投資家対策、という思惑はあるのですが、やっていることは正しいことだと思いますので、持続可能な社会の実現に向けて一人ひとり、もしくは全ての主体が取り組むことが重要なと思っています。

ワーク：自身の活動、もしくは、所属組織の活動で、17 のゴールの達成に貢献し得る活動を考える。

講義はここまでにして、少し手を動かしていただこうというところです。少しワークということで、やってみたいと思います。皆さんのお手元に 1 枚もので、SDGs17 のゴールと、その回答欄が書かれた紙が 2 枚あると思います。2 枚あるのは何かというと、まず 1 ページ目は皆さんご自身がこの SDGs の達成に繋がる何か活動や動きをされているかというもので、先ほどの連環とか連鎖みたいな考え方がありましたが、ご自身の生活の中でこの 17 ゴールの達成に貢献しうる活動を挙げてください。もしくは、一緒に活動している人、団体との関連、連鎖みたいな形で、じゃあそれがどういう他のゴールに繋がっているのかということを書いていただきたい。もう 1 つは今度は自分ではなくて、ご自身が所属されている組織、会社や団体の事業活動の中で、同じようにこういったゴールに関連しているのかというのを書きいただければと思います。どちらか 1 つを選んでください。

例えばどういう回答があるのかという事例を示したいと思いますが、自分の生活の中でこの 17 のゴールに貢献する活動となりますと、例えばゴールの 13 番、気候変動対策、CO₂ 対策ということで、夏は車を使わないで自転車通勤をしますよ、一緒に活動している人、同僚と自転車で行こうみたいな話をしています。これは確かに車を使わないので、CO₂ 削減対策に繋がります。ただ、実はこれは他にも関連していて、自転車通勤をするということは、やはり運動になりますので、実はこのゴールの 3 番、全ての人に健康福祉、健康のポテンシャルが上がりますよというものにも繋がります。更には、エネルギーを使わなくて済む、CO₂ 排出というのはエネルギーを使わなくて済むので、7 番のゴール、エネルギーはみんなで、そしてクリーンに、というのにも繋がる。また、8 番、働きがい経済成長ということで、やはり自分が健康になるということは、それだけ生産性も上がっていく。やっぱり運動すれば活動的になりますので、そうすると働きがいも生まれる。それが、ないしは企業にとっては頑張ってもらえるわけですから、そういった経済成長にも繋がりますし、あと 11 番、持続可能な街作りといって、健康になってくれれば病気になるリスクが下がる、ということは、健康保険をそれだけ自治体から支払わなくて済むということで街作りにも貢献する。色々なゴールに繋がっていきますよというのが 1 つ。

あとは例えば企業活動で工務店やハウスメーカーだったら、北海道産の木材を使った住宅の建築、これは 12 番。作る責任、使う責任に繋がりますよ、地産地消になりますよ、森林組合と一緒にやりますよとなると、今度はその地域材を使うということは地場の森林を経営している人たちの雇用などにも繋がりますので、貧困を無くそうですとか。あとは、木材を使うということで住んだ人が少し心地よく過ごせるということで健康にも繋がるかもしれませんし、もしくは高断熱高気密な住宅を建てれば部屋の中の温度差が少なくなるので、それは血压が下がったりというのにも繋がったりする、とどんどん色々なゴールが繋がっていくというものを実感していただきたいなと思いますので、これから 5 分くらいお時間を取らせていただきますので、どちらかご自身

の生活でも企業活動としてもどちらでもいいです。2、3 個書いてみていただけますか。

ーワークで中断ー

ちなみにこのワークは、法政大学の川久保先生が学生向けにやっけていまして、学生さんたちから色々なアイデアが出てきているみたいです。それもあとで紹介させていただければと思います。いくつか書けている方いらっしゃいましたので、こんなアイディアがありましたとか、少しお話しただけるといいかなと思います。

〈発表者〉

私は「個人、ご自身の生活の中で」というところでいくつか書いたのですが、1 つは家庭菜園で野菜を育てる。これは、まず目標は一応飢餓をゼロに 2 番を書いたのですが、家庭菜園で野菜を育てればこれが目標でも、例えば 15 番の陸の豊かさを守ろうですとか、ちょっと飛んじゃうのですが、野菜を育てることで運動もするので 3 番の健康のところ、7 番のエネルギー、買いに行ったりとかしなくていいので、そういった 7 番だとか、気候変動の 13 番と関連するかなと思いました。以上です。

〈佐竹氏〉

いいですね、家庭菜園から健康までイメージが膨らむというのは、すごくいいなと思いました。あと 1 人くらいぜひ。

〈発表者〉

ゴール 1 の貧困を無くそうというところで、子どもに学習支援を加味した子ども食堂を 7 月から始めています。これに関連して、飢餓をゼロに、全ての人々に健康と福祉を、2 番、3 番、4 番、8 番、10 番、11 番、16 番、17 番、その辺りが関連するのかな。2 番目は、やはり地元のフードバンクのサポートということで、去年の 6 月にフードバンクが立ち上がったのですが、なかなか認知度がというか普及しておりませんで、若干個人寄贈主が増えてはきたのですが、なかなか CSR の観点で地元の食品企業からの食品寄贈というのがまだまだ定着していない部分があって、その辺りを展開していきたいと今考えているのですが、ゴールとしては 1 番、3 番、10 番、11 番、16 番です。最後に、私は子ども食堂とかやっけて感じたことなのですが、結構子どもだけではなくて、その親や老人、労働者などみんな孤立しているなということに気が付いて、出来ればそういったような子ども食堂、地域食堂、フードバンクのネットワーク化で一般市民の方たちもあまり子どもの貧困ということを知られていないので、そういうものを PR していきたいなと。明日フォーラムが地元であるのですが、以上です。

〈佐竹氏〉

フードバンクの取り組みなどから、貧困や飢餓ゼロや健康などありますが、10 番は不平等ですね。不平等は増えています。そういったところにも繋がっているということで、良いお話をい

ただいたかなと思います。この SDGs との繋がり、先ほど 230 の指標というような形で国を評価する指標というのがあるのですが、今、国や大学などの研究機関でも、それぞれの国も例えば日本だったら日本なりの貧困の課題とかというものもあるだろうと、そういったものを解決するのに自分たちの指標というものが本当は必要なんじゃないかという議論もされていたりしますし、また色々な地域で自治体として取り組んでいるところはあまり多くないという話を先ほどしましたが、市民団体レベルでの取り組みというのは、全国かなり活動が広がってきています。札幌でも、後ろにいらっしゃいます自由学校「遊」さんがローカル SDGs のローカルアジェンダということで、札幌で取り組むにはどうしていったらよいのかというようなことを市民の皆さんで考えて、それに取り組んでいくといった取り組みもされていたりという感じで進んでいるところですので、皆さんも企業ないしは自分たちの活動の中で、こういった SDGs を使って、先ほど 2 名の方ですがお話いただいたとおり、このテーマで何をしなきゃいけないっていうのは決まってませんし、指標みたいなものもあるしターゲットもあるのですが、自分なりにその取り組みを、この達成に繋がる取り組みを進めていって、それが同時達成的にどういった関わりを持っていくのかというのを考えるツールとして使っていただければなと思っていますので、ぜひご活用いただければと思います。

グループで共有した後、全体共有

前後の机に座る 5-8 人でグループを作り、各自の取り組みと関連するゴールについて共有。その後、各グループ（8 グループ）からの発表を、全体で共有した。



〈佐竹氏〉

皆さまありがとうございました。SDGs、なかなか新しい言葉で触れる機会も少ないかもしれませんが、実際の生活、もしくは企業活動の中での取り組みを考えて様々なゴールに繋がっていく、同時達成になるんだというようなことを共有いただけたかなと思います。私のお話、それからワークについてはこちらで以上となります。

■13:00～16:40【講義と実習】

「SDGs について、ともに考えるファシリテーション技術」

講師／ファシリテーター

北海道環境パートナーシップオフィス/

北海道 ESD 活動支援センター

溝渕 清彦様



グループワーク 1

午前中のグループセッションで「気づいたこと」をワークシートに記載し、グループ内で共有した後、4つのグループからその内容をそれぞれ報告して全体で共有した。

講義

参加者の希望に合わせて、グループでの意見交換を進める場合を想定した、協働を促進するファシリテーションについての講義が行われた。

- ・ファシリテーションには、「考え方」と「技術」が重要
- ・「考え方」としては、4つのプロセス（共有、発散、収束、決定）を理解し、それぞれの場面に応じたファシリテーションのポイントが紹介された。
- ・「技術」としては、きく、かく、みるの3つのスキルが紹介された。



ケース演習

グループで「小学校で SDGs について説明する」、もしくは「企業で SDGs について説明する」のどちらかのケースを選び、「提供する情報・知識」と投げかける「問い」を考えた。それをもとに、活動のねらいを確認しながら、タイムテーブルごとの「対象者の活動・学習内容」と「指導・支援の方法（活用する「情報・知識」「問い」）」で構成される45分のプログラム案を作成した。その後、全体共有と講師による講評が行われた。



■16:30-16:45 閉会式、アンケートの記載、修了証交付

修了証交付

司会

NPO 法人北海道環境カウンセラー協会 理事 江本 匡

修了証交付

環境省北海道地方環境事務所

環境対策課 課長 遊佐 秀憲氏

本日の研修が、大変活発に進行し
良い成果があった。また明日からの
カウンセラー活動に、本日取得され
たものを活かしてくだされば幸いで
すと、挨拶の後修了証の交付がされ
た。

本年度の全課程修了者は、15 名であった。(欠席者 3 名)



(4) 事後処理

① アンケートの回収・とりまとめ・集計結果の報告

研修時に実施するアンケートの回収、とりまとめを行い、集計結果を事務所に報告する。

② 講師への旅費、諸謝金の支払い

研修実施に伴い発生する講師の旅費、諸謝金等の支払い事務を行う。

③ 実績報告書の作成

研修終了後、研修プログラムの内容及び、受講者アンケートの結果を含め、担当者和その記載内容を調整した上、実績報告書を作成した。また、実績報告書の内容については、北海道地区で登録されているカウンセラーに対して周知する予定である。

(5) 本業務の総括

以上、業務仕様書に基づき、平成29年度環境カウンセラー研修開催業務を実施したところであるが、当協会において本研修実施に係る総括を次の通り取りまとめた。本研修の次年度以降の実施に当たり、参考になれば幸いである。

- (1) 基調講演には、国際協力機関、自治体、事業者、一般市民、環境保全に関わるNPO・市民団体等、幅広い分野から多数の参加があった。これは、SDGsへの関心が高まっていることと時宜にかなったテーマ設定であったことを表していると言えよう。また、一方的に講演を聞くだけではなく、それぞれがSDGsについて考える個人ワークや、それらを小グループで共有するワークが行われたことを評価する声が多かった。
- (2) 午後の講義とグループワークは、今までのカウンセラー研修で、外部のファシリテーターによってワールドカフェ形式でグループディスカッションを行って来た経験が生きたものになったという声があった。
- (3) 会議の4つのプロセス「共有」「発散」「収束」「決定」についてはとても参考になった、すぐに応用できるまでには至らないが、視点を得たことは今後の活動に活かせるはずだ、という声があった。
- (4) 来年度のテーマ、プログラムについて
 - ・地球温暖化対策、特にCO₂ 排出削減は大きな課題であり、環境カウンセラーとして今後とも積極的に関わっていく必要がある。
 - ・SDGsについても、引き続き、環境カウンセラーとして積極的に関わっていく必要がある。

平成29年度環境カウンセラー研修

添 付 資 料

資料 1 - 配付資料

平成29年度環境カウンセラー研修スケジュール（北海道地区）

開催日時：12月1日（土） 10：00～16：45

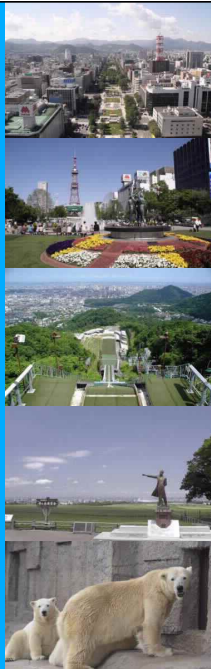
場 所：札幌市環境プラザ環境研修室（札幌市北区北8西3 札幌エルプラザ2F）

定 員：最大50名

午 前 の 部	10:00～10:10 (10 分)	開会・オリエンテーション 主催者挨拶 環境省北海道地方環境事務所 環境対策課 課長 遊佐 秀憲
	10:10～12:00 (110 分)	基調講演（一般公開） 「SDGs って何だろう？～なぜ、国、自治体、企業が取り組もうとしているのか？」 札幌市環境局環境都市推進部環境計画課調査担当係長 佐竹輝洋様
	12:00～13:00 (60 分)	昼食・休憩
午 後 の 部	13:00～16:40 (210 分)	講義と実習 「SDGsについて、ともに考えるファシリテーション技術」 講師／ファシリテーター 北海道環境パートナーシップオフィス/北海道ESD活動支援センター 溝渕 清彦 様 ファシリテーターの役割、準備、意見や気づきを引き出す「問い」「プログラム」についてなど、さまざまな場面で役立つ「ファシリテーション技術の向上」について学び、体験する。
		休憩（5 分間）
		実践研修のふりかえり～自分は何が変わったか（30 分） 出席者各自による発表
		まとめ（10 分）
	16:40～16:45	閉会式〈修了証交付〉、アンケートの記入等 解散

※環境カウンセラーの方は、午前・午後の部の一つでも受講されない場合は、終了要件は、満たしませんので御注意下さい。

資料 2 - 基調講演資料






2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム

SDGsって何だろう？

-なぜ、国や自治体・企業は、取り組もうとしているのか-

札幌市 環境局 環境都市推進部 環境計画課
調査担当係長 佐竹 輝洋



国連「持続可能な開発目標（SDGs）」について 1 Page

2015年の9月に国連で採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」における、17の目標と169のターゲットからなる、2030年に向けた国連加盟国193カ国共通の目標。



2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

SDGs17のゴール
2 Page

ゴール1(貧困)	: あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
ゴール2(飢餓)	: 飢餓を終わらせ、食糧安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
ゴール3(健康な生活)	: あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を保障し、福祉を促進する
ゴール4(教育)	: すべての人々への包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
ゴール5(ジェンダー平等)	: ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女子のエンパワメントを行う
ゴール6(水)	: すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
ゴール7(エネルギー)	: すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代的エネルギーへのアクセスを確保する
ゴール8(雇用)	: 包括的かつ持続可能な経済成長、およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用とディーセント・ワーク（適切な雇用）を促進する
ゴール9(インフラ)	: レジリエントなインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進、およびイノベーションの拡大を図る
ゴール10(不平等の是正)	: 各国内および各国間の不平等を是正する
ゴール11(安全な都市)	: 包括的で安全かつレジリエントで持続可能な都市および人間居住を実現する
ゴール12(持続可能な生産・消費)	: 持続可能な生産消費形態を確保する
ゴール13(気候変動)	: 気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる
ゴール14(海洋)	: 持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続的に利用する
ゴール15(生態系・森林)	: 陸域生態系の保護・回復・持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・防止および生物多様性の損失の阻止を促進する
ゴール16(法の支配等)	: 持続可能な開発のための平和で包括的な社会の促進、すべての人々への司法へのアクセス提供、およびあらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包括的な制度の構築を図る
ゴール17(パートナーシップ)	: 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

SDGs採択までの歴史
3 Page

1992年6月 環境と開発に関する国際連合会議（地球サミット）@リオ・デ・ジャネイロ
 →アジェンダ21の合意、気候変動枠組条約と生物多様性条約の提起と署名の開始
 →地球規模での課題に世界中で取り組むきっかけに。

2000年9月 国連ミレニアム・サミット@ニューヨーク国連本部
 →国連ミレニアム宣言の採択 →**ミレニアム開発目標（MDGs、2000-2015年）**の決定

2002年8月 持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグ・サミット、リオ+10）
 →「アジェンダ21」の実施状況を点検、今後の取組の強化

2012年6月 国連持続可能な開発会議（リオ+20）@リオ・デ・ジャネイロ
 →SDGsの設定について議論（30カ国によるオープン・ワーキング・グループの設置等）
 持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラムの創設決定
 （毎年閣僚級会合を開催、4年に1回の国連総会開会時に首脳級会合を開催）

2015年9月 国連持続可能な開発サミット@ニューヨーク国連本部
 →150を超える加盟国首脳の参加のもと、**持続可能な開発目標（SDGs、2015-2030）**となる
 「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択

詳細は外務省HPを参照ください：
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/doukou/mdgs/p_mdgs/index.html

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

SDGs採択の背景

4 Page

①ミレニアム開発目標（MDGs）の未達成課題

MDGsは貧困削減を中心とする8つの目標と21のターゲットを2015年までに達成すべきものとして掲げていたが、貧困者の割合が改善されたなどの成果はあるものの、成長の裏側で国内の格差が拡大し、成長から取り残されている人々も多々いる。

②地球システムの限界

地球が吸収できる以上の温室効果ガスの排出、陸域、海洋等資源の消費、急激な人口増加（毎年約8300万人の人口増により、現在76億人の世界人口は、2030年までに86億人、2050年に98億人、そして2100年には112億人に達する予測）による、地球が支えられる生態系以上の人類の消費活動への対応。

③現代社会における対応の必要性

格差の拡大、個人の情報伝達速度・量の劇的変化（約30億人のインターネットユーザー、約70億人の携帯電話利用者）、難民・移民問題、国際テロリズム、気候変動の影響等による大規模災害の顕在化など

ミレニアム開発目標（MDGs） Millennium Development Goals

1 極度の貧困と飢餓の撲滅 ● 1日1.25ドル未満で生活する人口の割合を半減させる ● 飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる	2 妊産婦の健康の改善 ● 妊産婦の死亡率を4分の1に削減する	3 初等教育の完全普及の達成 ● すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする	4 HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止 ● HIV/エイズの蔓延を防止し、その後減少させる
5 ジェンダー平等推進と女性の地位向上 ● すべての教育レベルにおける男女格差を解消する	6 環境の持続可能性確保 ● 安全な飲料水と衛生施設を利用できない人口の割合を半減させる	7 乳幼児死亡率の削減 ● 5歳未満児の死亡率を3分の1に削減する	8 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進 ● 民間部門と協力し、情報・通信分野の新技術による利益が得られるようにする

2015年までに国際社会が開発分野において達成すべき共通の目標。上記8つのゴールの下に、より具体的な21のターゲットと60の指標が設定されている。これらの目標は1990年を基準年としており、2015年が達成期限となっている。

改善された点

- 世界全体では極度の貧困の半減を達成
- 世界の貧困人口は半減達成の軌道に
- 不識字児童の総数は約半減
- マラリアと結核による死亡は大幅に減少
- 安全な飲料水を利用できない人口の割合の半減を達成

残存した課題

- 国内での男女、収入、地域格差が存在
- 5歳未満児死亡率は減少するも、目標達成には遠い
- 妊産婦の死亡率は削減に遅れ
- 改訂された衛生施設へのアクセスは十分でない など

国際社会のさらなる努力が必要です

※MDGsの8つの目標は「時限」はつけない「世界のまじわり」が特徴的なもの

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

富のワイングラス

5 Page

全世界の富のうち、約8割は世界の高所得者20%の人たちに分配され、世界の最も貧しい20%の人たちは、世界の富の約1%で生活している。 → 貧困格差の拡大

1 貧乏 GET 1

2 豊か GET 2

SDGsのターゲット

1.1 2030年までに、現在1日1.25ドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる。

1.2 2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、すべての年齢の男性、女性、子どもの割合を半減させる。

2.1 2030年までに、飢餓を撲滅し、すべての人々、特に貧困層及び幼児含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。

Figure 7. Global Income Distributed by Percentiles of the Population in 2007 (or latest available) in PPP constant 2005 international dollars*

Each horizontal band represents an equal fifth of the world's population

Persons below \$1.25/day (22%)†

Persons below \$2/day (40%)†

Source: Adapted from UNDP (2005) using World Bank (2011), UNU-WIDER (2008) and Eurostat (2011)
 * According to the global accounting model
 † Based on Chen and Ravallion (2008)

1800

1975

2015

出典：https://ourworldindata.org/income-inequality/

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

「持続可能 (sustainable)」とは？

辞書の意味：環境・社会・経済などが将来にわたって適切に維持・保全され、発展できること。

言葉の意味：**sustain**（維持する）+ **able**（～できる）
sus-（下に）+ tain（つかんで離さない）→下から支え、ふんばって離れない

【地球の現状（地球1.5個分の消費／人口76億人→2050年98億人）】

【淡水域】

Index Value (1970 = 1)

76%

【陸域】

Index Value (1970 = 1)

39%

【海域】

Index Value (1970 = 1)

39%

WWF『Living Planet Report : 生きている地球レポート』（WWF Japan HPより）

■エコロジカル・フットプリント

20
10
0

1961 1970 1980 1990 2000 2012

▲地球の生物生産量 (バイオキャパシティ)

生産能力阻害地
森林地
牧草地
農耕地
漁場
二酸化炭素吸収地

今の地球を本当に次世代に残していけるのか？ → 7代先のことを考えて、今、すべきことを決める（インディアンの教え）

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

SDGsの特徴①

①2030年に向けた世界の目標

- 先進国を含む全ての国が参加、適用される。
- 誰も取り残さない（No one will be left behind）

②5つの"P"

- 人間（People）、地球（Planet）、繁栄（Prosperity）、平和（Peace）、パートナーシップ（Partnership）

③バックキャスティングによる目標設定

- これまでの政策は各国の状況に応じた目標設定（ex. 京都議定書、パリ協定）
- 目標ありきで、その手段・方法は各国・各主体に委ねられる（モニタリングを実施）

④計画検討・政策ツールとして活用可能

- 政策の連携、統合性を確保するためのチェックリスト
- グローバルに、かつ長期的に政策課題を検討、広めるためのツール
- 国だけではなく、自治体、民間企業、一般市民を含む幅広いステークホルダーの参加を促す仕組み

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

SDGsの特徴②

【持続可能な開発目標（SDGs）における新たな考え方】

- 「環境」「経済」「社会」の統合
- 様々な分野に絡み合う現代社会の課題を解決する仕組み
- 各ゴール・ターゲットが関連しあい、同時達成を目指す
→「縦割り」を乗り越える仕組み

環境、経済、社会を三層構造で示した木の図

資料：環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクト「持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究」より環境省作成

出典：平成29年度環境白書（環境省）

課題の連鎖

気候変動の影響増大

↓

水害や農作物の不作

↓

貧困の悪化/雇用喪失

↓

内戦/テロの増加

エネルギー消費の増大

↑

都市の人口増加

↑

移民の増加

↑

格差拡大/貧困悪化

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

SDGsの特徴②

解決の連鎖

図 1-2-1 ターゲット 12.3 と他ゴール・ターゲットとの相関関係

資料：盤江憲史資料（2017）より環境省作成

出典：平成29年度環境白書（環境省）

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

SDGsの特徴③

10 / Page

- 17のゴール（目標）、169のターゲット（取組）、230のインディケーター（指標）の3層構造。
○各国・各企業の持続可能な取組を評価することができる。

SDG Index and Dashboards Report 2017（SDSNとドイ・ベルグ・シュタットの財団による評価）

Rank	Country	Score	Rank	Country	Score	Rank	Country	Score	Rank	Country	Score
1	Sweden	85.6	21	Belarus	77.1	41	Argentina	72.5	61	Singapore	69.0
2	Denmark	84.2	22	Malta	77.0	42	United States	72.4	62	Russian Federation	68.9
3	Finland	84.0	23	Slovak Republic	76.9	43	Armenia	71.7	63	Albania	68.9
4	Norway	83.9	24	Croatia	76.9	44	Chile	71.6	64	Algeria	68.8
5	Czech Republic	81.9	25	Spain	76.8	45	Uzbekistan	71.2	65	Tunisia	68.7
6	Germany	81.7	26	Australia	75.9	46	Kazakhstan	71.1	66	Georgia	68.6
7	Austria	81.4	27	Poland	75.8	47	Uruguay	71.0	67	Turkey	68.5
8	Switzerland	81.2	28	Portugal	75.6	48	Azerbaijan	70.8	68	Vietnam	67.9
9	Slovenia	80.5	29	Cuba	75.5	49	Kyrgyz Republic	70.7	69	Montenegro	67.3
10	France	80.3	30	Italy	75.5	50	Cyprus	70.6	70	Dominican Republic	67.2
11	Japan	80.2	31	Korea, Rep.	75.5	51	Suriname	70.4	71	China	67.1
12	Belgium	80.0	32	Latvia	75.2	52	Israel	70.1	72	Tajikistan	66.8
13	Netherlands	79.9	33	Luxembourg	75.0	53	Costa Rica	69.8	73	Morocco	66.7
14	Iceland	79.3	34	Moldova	74.2	54	Malaysia	69.7	74	Jamaica	66.6
15	Estonia	78.6	35	Romania	74.1	55	Thailand	69.5	75	Paraguay	66.1
16	United Kingdom	78.3	36	Lithuania	73.6	56	Brazil	69.5	76	Belize	66.0
17	Canada	78.0	37	Serbia	73.6	57	Macedonia, FYR	69.4	77	United Arab Emirates	66.0
18	Hungary	78.0	38	Greece	72.9	58	Mexico	69.1	78	Barbados	66.0
19	Ireland	77.9	39	Ukraine	72.7	59	Trinidad and Tobago	69.1	79	Peru	66.0
20	New Zealand	77.6	40	Bulgaria	72.5	60	Ecuador	69.0	80	Jordan	66.0

<http://www.sdindex.org/assets/files/2017/2017-SDG-Index-and-Dashboards-Report--full.pdf>

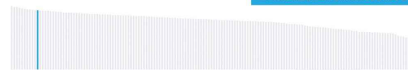
2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

日本の評価

11 / Page

JAPAN
OECD Countries

OVERALL PERFORMANCE

SDG Global rank
11 (of 157)

COMPARISON WITH OTHER DEVELOPMENT METRICS

	GLOBAL RANK	SCORE OR VALUE	REGIONAL AVERAGE
GDP per capita, PPP (2015)	23/153	US\$ 37,872	US\$ 38,362
Subjective Wellbeing (2016)	39/133	60.0	66
Environmental Performance Index (2016)	39/157	80.6	84.5
Human Development Index (2016)	15/157	90.3	88.7
Global Competitiveness Index (2016/17)	8/134	78.3	71.4
Global Peace Index (2016)	9/149	72.1	67.1

SDG DASHBOARD



JAPAN

Performance by Indicator

Indicator	Value	Rating	Indicator	Value	Rating
SDG1 Poverty reduction rate at \$1.90/day (No population)	0.0	●	SDG16 Legality performance index (Quality of trade and transport related infrastructure) (How to improve)	4.1	●
SDG2 Poverty reduction rate at \$1.90/day in 2030 (No population)	0.0	●	SDG17 SDG University Ranking: Average score of top 1 universities (No 100)	83	●
SDG3 Prevalence of undernourishment (No population)	1.2	●	SDG18 Number of scientific and technical journal articles (per capita)	0.8	●
SDG4 Resilience of learning (low-income) (No population)	2.1	●	SDG19 Research and development expenditure (No 100)	10.1	●
SDG5 Prevalence of obesity (No population)	2.3	●	SDG20 Private expenditure (No 100)	10.1	●
SDG6 Prevalence of obesity (No population)	3.1	●	SDG21 SDG index (No 100)	10.1	●
SDG7 Gender and climate	6.1	●	SDG22 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG8 Sustainable Resource Management index	0.7	●	SDG23 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG9 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG24 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG10 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG25 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG11 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG26 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG12 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG27 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG13 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG28 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG14 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG29 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG15 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG30 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG16 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG31 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG17 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG32 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG18 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG33 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG19 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG34 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG20 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG35 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG21 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG36 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG22 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG37 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG23 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG38 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG24 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG39 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG25 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG40 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG26 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG41 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG27 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG42 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG28 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG43 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG29 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG44 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG30 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG45 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG31 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG46 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG32 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG47 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG33 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG48 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG34 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG49 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG35 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG50 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG36 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG51 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG37 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG52 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG38 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG53 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG39 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG54 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG40 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG55 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG41 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG56 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG42 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG57 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG43 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG58 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG44 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG59 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG45 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG60 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG46 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG61 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG47 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG62 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG48 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG63 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG49 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG64 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG50 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG65 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG51 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG66 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG52 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG67 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG53 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG68 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG54 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG69 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG55 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG70 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG56 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG71 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG57 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG72 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG58 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG73 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG59 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG74 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG60 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG75 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG61 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG76 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG62 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG77 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG63 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG78 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG64 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG79 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG65 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG80 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG66 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG81 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG67 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG82 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG68 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG83 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG69 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG84 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG70 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG85 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG71 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG86 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG72 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG87 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG73 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG88 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG74 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG89 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG75 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG90 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG76 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG91 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG77 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG92 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG78 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG93 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG79 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG94 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG80 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG95 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG81 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG96 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG82 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG97 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG83 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG98 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG84 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG99 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG85 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG100 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG86 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG101 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG87 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG102 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG88 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG103 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG89 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG104 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG90 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG105 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG91 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG106 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG92 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG107 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG93 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG108 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG94 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG109 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG95 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG110 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG96 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG111 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG97 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG112 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG98 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG113 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG99 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG114 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG100 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG115 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG101 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG116 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG102 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG117 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG103 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG118 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG104 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG119 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG105 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG120 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG106 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG121 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG107 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG122 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG108 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG123 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG109 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG124 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG110 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG125 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG111 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG126 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG112 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG127 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG113 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG128 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG114 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG129 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG115 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG130 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●
SDG116 Material mortality rate (per 100,000 live births)	0.0	●	SDG131 Prevalence of obesity (No population)	1.3	●

我が国におけるSDGs達成に向けた取組

12
Page

持続可能な開発目標（SDGs）推進本部（2016年5月設置）

＜構成員＞

本部長 内閣総理大臣
 副本部長 内閣官房長官、外務大臣
 本部員 他の全ての国務大臣



回	日時	内容
第 1 回	2016年5月20日（金）	持続可能な開発目標（SDGs）の実施のための我が国の指針の策定
第 2 回	2016年12月22日（木）	持続可能な開発目標（SDGs）実施指針の決定
第 3 回	2017年6月9日（金）	持続可能な開発目標（SDGs）の取組状況

持続可能な開発目標（SDGs）推進円卓会議

持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた我が国の取組を広範な関係者が協力して推進していくため、行政、N G O、N P O、有識者、民間セクター、国際機関、各種団体等の関係者が集まり、意見交換を行う「SDGs推進円卓会議」をSDGs推進本部の下に開催。

詳細は <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/index.html>

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

SDGs実施指針の 8 つの優先課題と具体的施策

13
Page

①あらゆる人々の活躍の推進

→ ■一億総活躍社会の実現 ■女性活躍の推進
 ■子供の貧困対策 ■障害者の自立と社会参加支援
 ■教育の充実

②健康・長寿の達成

→ ■薬剤耐性対策 ■途上国の感染症対策や保健システム強化、公衆衛生危機への対応 ■アジアの高齢化への対応

③成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション

→ ■有望市場の創出 ■農山漁村の振興 ■生産性向上
 ■科学技術イノベーション ■持続可能な都市

④持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備

→ ■国土強靱化の推進・防災 ■水資源開発・水循環の取組
 ■質の高いインフラ投資の推進

⑤省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会

→ ■省・再生可能エネルギーの導入・国際展開の推進
 ■気候変動対策 ■循環型社会の構築

⑥生物多様性、森林、海洋等の環境の保全

→ ■環境汚染への対応 ■生物多様性の保全
 ■持続可能な森林・海洋・陸上資源

⑦平和と安全・安心社会の実現

→ ■組織犯罪・人身取引・児童虐待等の対策推進
 ■平和構築・復興支援 ■法の支配の促進

⑧SDGs実施推進の体制と手段

→ ■マルチステークホルダーパートナーシップ
 ■国際協力におけるSDGsの主流化
 ■途上国のSDGs実施体制支援

● 実施指針の付表において、関係省庁から提出された国内及び国外の 1 4 0 の施策を、可能な限り具体的な指標と共に掲げた。

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム（HLPF）

14 Page

SDGs実施に関して、政治的リーダーシップや指針、提言を提供するために不可欠なグローバルな話し合いの場。SDGsの実施面で何がうまく行き、何がうまく行っていないのかを検討することにより、SDGsのビジョンを実現することに役立てていく。

→ 2017年7月10～19日、ニューヨーク国連本部で開催。日本は岸田外務大臣（当時）が官民パートナーシップ（Public Private Action for Partnership: PPAP）として、「政府だけでなく市民社会や民間企業等を巻き込んだ日本の多様な叡智を結集させ、国内外で具体的なアクションを起こしていく。」との決意を表明。



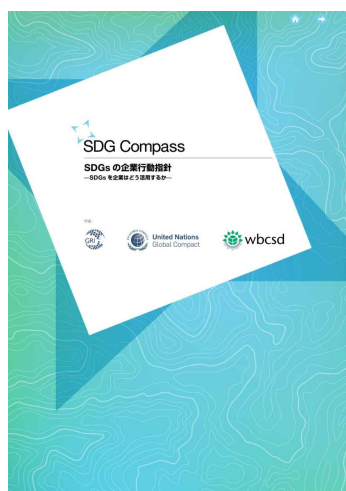
<http://www.mofa.go.jp/files/000277580.pdf>

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

企業に向けた取組

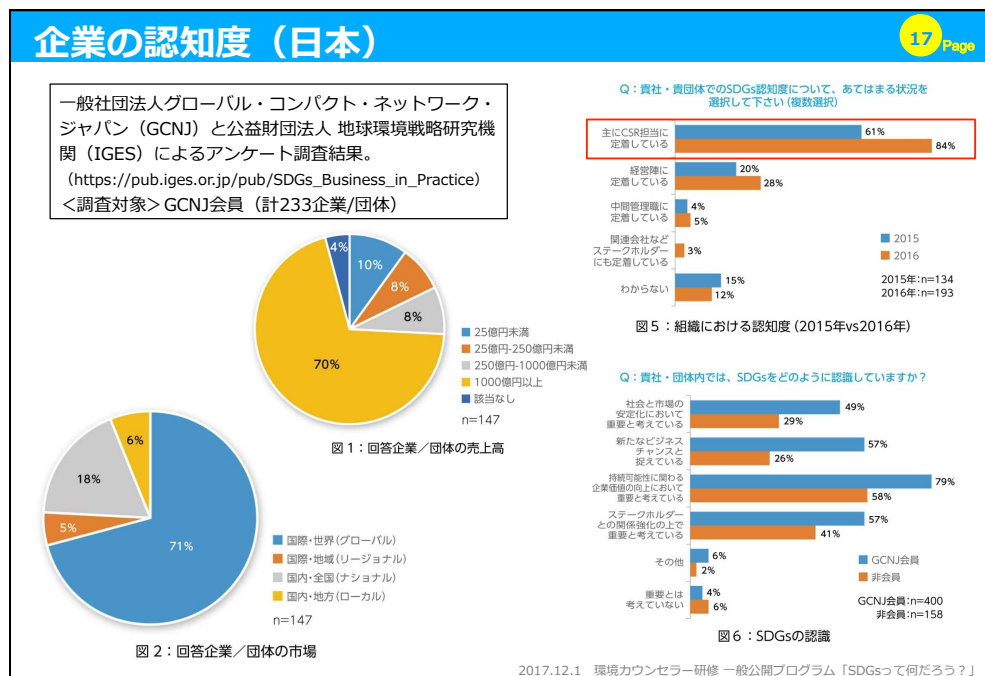
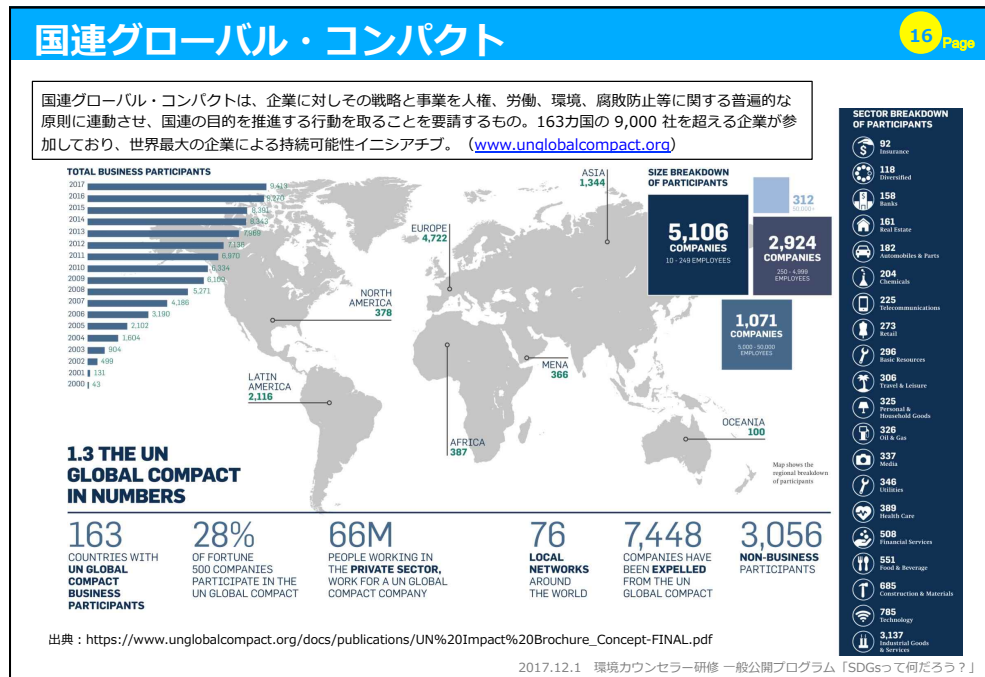
15 Page

企業がSDGsに取り組むための指針として、GRI（グローバル・レポーティング・イニシアチブ）、国連グローバル・コンパクト、持続可能な開発のための世界経済人会議（WBCSD）が「SDG Compass」を作成。



<http://www.uncjcn.org/activities/help/index.html>

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」



企業の取組①

18 Page

ケーススタディ2

KPIにSDGsをどう紐付ける？ ～SOMPOホールディングスの事例から³⁶～

2016年4月、SDGsやパリ協定策定などの国際動向をふまえて、自社の「グループCSR重点課題」の選定を、以下の4つのステップに基づいて実施した、としている。

- ステップ1：各種ガイドラインなどによる分析
- ステップ2：マルチステークホルダーとのダイアログ
- ステップ3：グループ内エンゲージメント
- ステップ4：項目の決定・取組み推進

防災・減災、健康・福祉、地球環境問題、より良いコミュニティ・社会づくり、ダイバーシティの推進・啓発など、新たな重点課題に即したグループCSR-KPI（例えば、女性管理職比率の2016年度目標として「2020年度末30%に向けた取組みの実施」）を策定し、PDCAを通じた取組みを推進し、パフォーマンスの向上を目指している。また、2016年度から「安心・安全・健康」をテーマとするサービス産業への構造転換を目指す新中期経営計画を開始している。



「グループCSR推進本部」でのSDGs講演の様子



SDGs研修会の様子

GCNJ, IGES「動き出したSDGsとビジネス～日本企業の取組み現場から～」(https://pub.iges.or.jp/pub/SDGs_Business_in_Practice) より抜粋

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

企業の取組②

19 Page

ケーススタディ5

社員自らが考えるSDGsがツリーに～住友化学の事例から³⁷～

持続可能な社会の構築に向けた諸課題を、化学の力で解決する“Solution Provider”として積極的に貢献すべく、SDGsの目標達成に向けた取組みとして、2つのプロジェクトを開始した。1つ目は、持続可能性への貢献を「見える化」し、社員の意識向上を図るために、温暖化対策、環境負荷低減などSDGsに貢献する同社の製品や技術を、社内に認定委員会を設置し、“Sumika Sustainable Solutions”として認定し、その開発や普及を推進している。例えば、リチウムイオン二次電池用セパレータ「ペルヴィオ®」は、「目標7（エネルギー）、13（気候変動）」に該当する製品として認定した。



Sumika Sustainable Solutions認定製品のリチウムイオン二次電池用セパレータ

2つ目は、グローバルプロジェクト「サステナブルツリー」である。全グループ会社の役職員を対象とし、「将来に希望が持てる社会を実現するために、社員自らが仕事や生活において何ができるか」を専用WEBサイトに投稿する取組みである。SDGs 17目標の中から、各人がテーマを選び投稿する企画を、2016年6～10月に実施し、6,005件の応募があった。社員一人一人が考えを出し合ったものを経営層に届けること、また、各々が自ら考えることを推進することにより、これらのプロジェクトへの社員のオーナーシップの強化にも繋がったという。



GCNJ, IGES「動き出したSDGsとビジネス～日本企業の取組み現場から～」(https://pub.iges.or.jp/pub/SDGs_Business_in_Practice) より抜粋

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

20 Page

マテリアリティ～環境課題の認識～

SDGsの目標と、対応するアレフの取り組み(■)



21 Page

経団連が目指す、IoTやAI、ロボットなどの革新技术を最大限活用して人々の暮らしや社会全体を最適化した未来社会、Society 5.0の実現を通じたSDGsの達成を柱として、企業行動憲章を7年ぶりに改定。

Keidanren
Policy & Action

Society 5.0は「課題解決」と「未来創造」の視点を兼ね備えた新たな成長モデル
さらには、国連で掲げられたSDGsの達成にも大いに貢献するもの



2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

前半戦はここまで！

～質疑の時間～

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

なぜSDGsに取り組むのか？

①国際的なルール作りへの関与のインセンティブ（国・企業）

- 国際的なルール作りにはステークホルダーとの対話が必要。
- そのステークホルダーに選ばれるためには、自国・自社の国際的プレゼンスが必要。

②国民・消費者への取組の明確化と巻き込み（国・企業・自治体）

- SDGsの活用により、自らの「立ち位置」を伝えることができる。
- 関心の高い国民・消費者への訴求力向上。

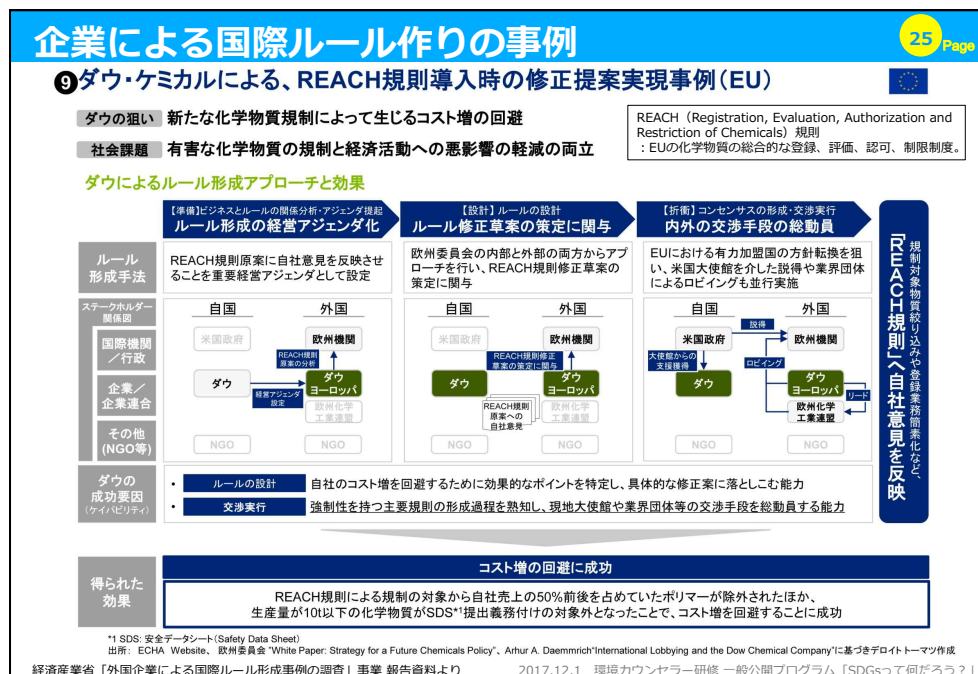
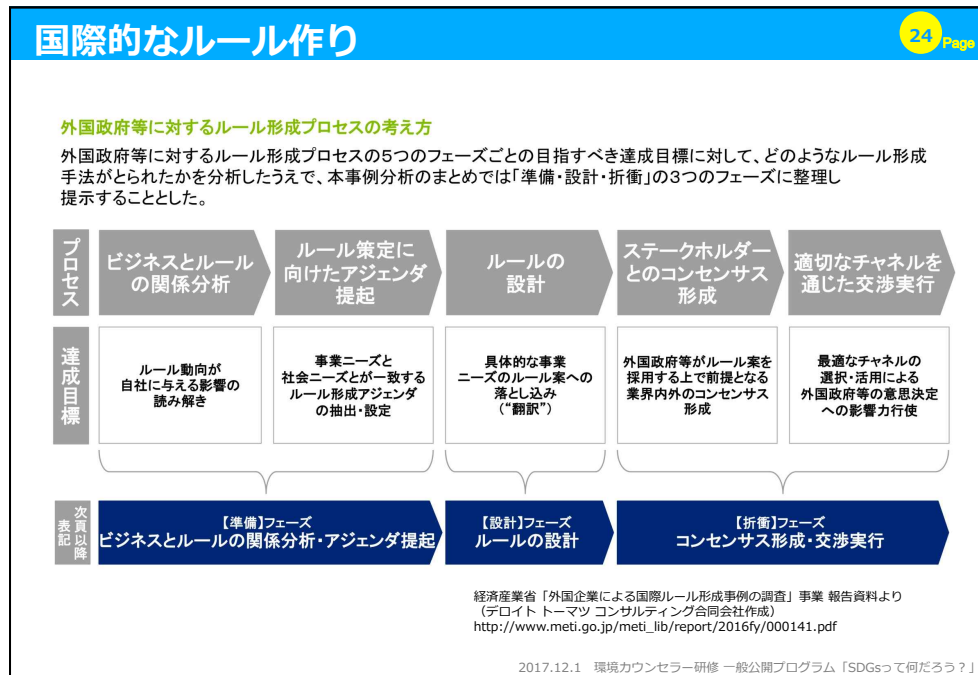
③投資家対策（企業）

- ESG投資など、持続可能な社会づくりを行う事業活動を行う企業への投資の風潮。
- SDGsによる格付け対策。

④パートナーシップ形成、政策提言、補助金獲得（自治体・市民団体等）

- SDGsをテーマとした横のつながり（パートナーシップ）の形成。
- SDGsによりその強み、弱みが見えた国や自治体への政策提言への活用。
- 各種補助金の条件になる前に先手を打つ。

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」



ESG投資とは

26 Page

- ESGは環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の頭文字を合わせた言葉。
- 2006年に国連のアナン事務総長（当時）が機関投資家に対し、ESGを投資プロセスに組み入れる「責任投資原則」（PRI、Principles for Responsible Investment）を提唱したことがきっかけで広まった。
- 投資するために企業の価値を測る材料として、これまでのキャッシュフローや利益率などの財務情報に加え、ESG要素を考慮する投資を「ESG投資」という。

ESGに関する要素の例

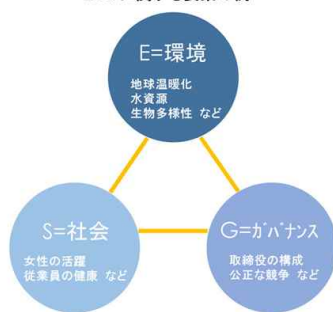


Table 1: Growth of SRI Assets by Region 2014-2016 単位：10億US\$
(SRI : Socially responsible investment、社会的責任投資)

Region	2014	2016	Growth over period	Compound Annual Growth Rate
Europe	\$ 10,775	\$ 12,040	11.7%	5.7%
United States	\$ 6,572	\$ 8,723	32.7%	15.2%
Canada	\$ 729	\$ 1,086	49.0%	22.0%
Australia/New Zealand	\$ 148	\$ 516	247.5%	86.4%
Asia ex Japan	\$ 45	\$ 52	15.7%	7.6%
Japan	\$ 7	\$ 474	6689.0%	724.0%
Total	\$ 18,276	\$ 22,890	25.2%	11.9%

→約2500%増

Table 2: Proportion of SRI Relative to Total Managed Assets

Region	2014	2016
Europe	58.8%	52.6%
United States	17.9%	21.6%
Canada	31.3%	37.8%
Australia/New Zealand	16.6%	50.6%
Asia	0.8%	0.8%
Japan		3.4%
Global	30.2%	26.3%

→世界の投資の1/4

Note: Asia figure includes Japan in 2014, but excludes Japan in 2016. Eurosif used a narrower definition of SRI in 2016 than in 2014. See Appendix I: Methodology and Data, for details.

右表の出典：GSIA “2016 Global Sustainable Investment Review”

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

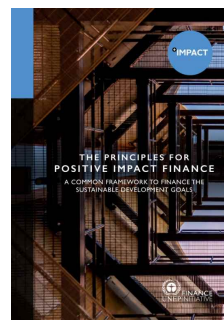
持続可能な投資に向けた様々な動き

27 Page

- 国連環境計画金融イニシアチブ（UNEP FI）が世界の主要金融機関19社とともに、国連持続可能な開発原則（SDGs）の達成に向け、金融機関が積極的な投融資を行うための原則「ポジティブ・インパクト・ファイナンス原則（PPIF）」を今年1月に制定。

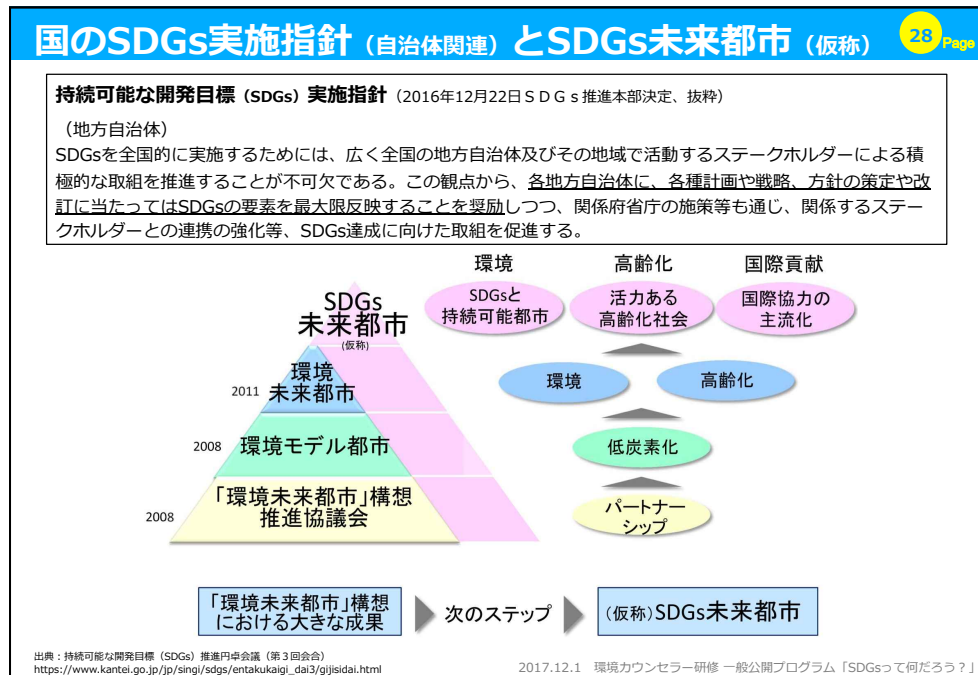
【参加金融機関】

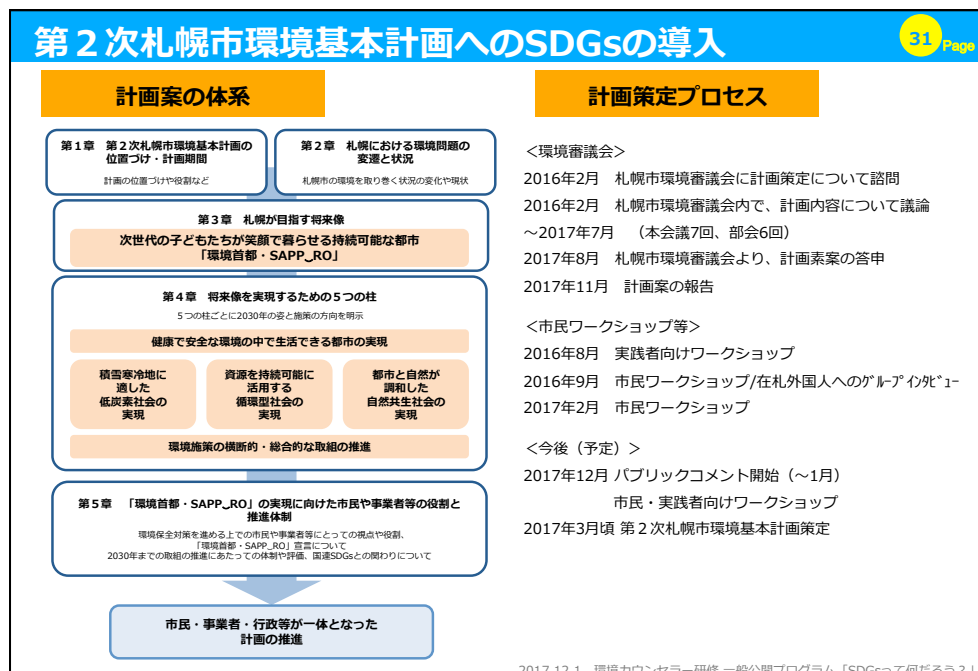
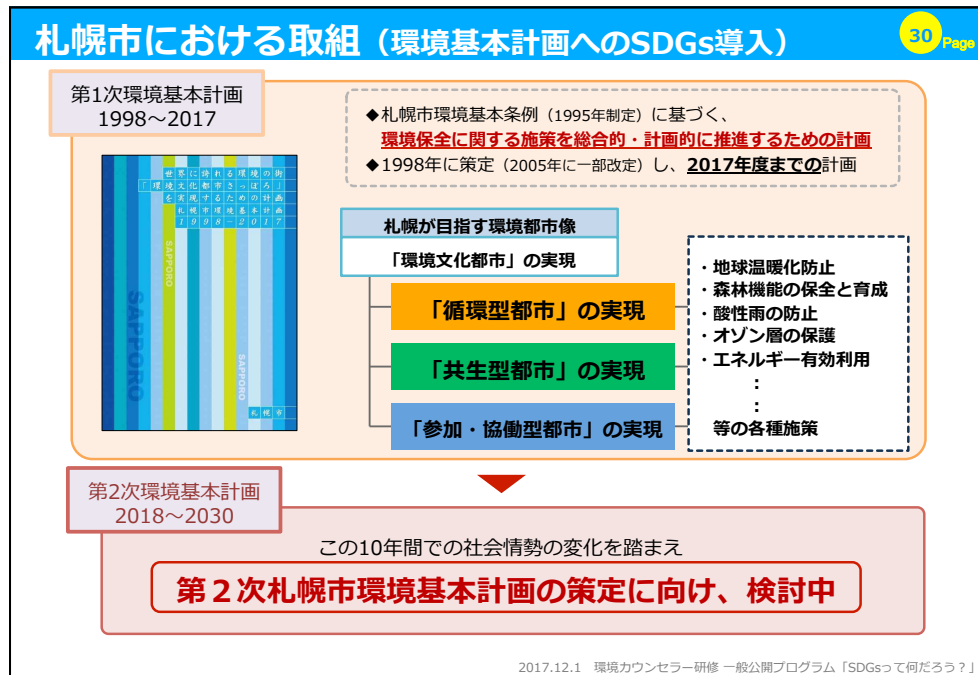
フランスのBNPパリバ、ソシエテ・ジェネラル、フランス預金供託公庫、Mirova、英国のハーミーズ・インベストメント・マネジメント、米国のPax World、オランダのINGグループ、トリオドス銀行、スウェーデンのSEB、カナダのデジャルダン・グループ、オーストラリアのウェストバック銀行、Australian Ethical、ブラジルのイタウバンク、南アフリカのファーストランド銀行、ネドバンク、スタンダード銀行、インドのイエス銀行、ギリシアのPiraeus Bank、マリイのBMCE Bank of Africa。
（19社の金融資産総額は6.6兆米ドル（約740兆円））



- 日本証券業協会の諮問機関として、今年9月に「証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会」を設置し、取組を開始。同懇談会における分科会として、「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」、「働き方改革そして女性活躍支援分科会」及び「社会的弱者への教育支援に関する分科会」を設置。

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」





第 2 次札幌市環境基本計画とSDGsとの関係											32/ Page
<SDGs と 5 本の柱との関連>											
5本の柱											
	健康・福祉	教育	水	気候変動	経済成長	産業・技術革新	まちづくり	社会・消費責任	気候変動	海洋資源	陸域生態系
○健康で安全な環境の中で生活できる都市の実現											
	①良好な大気、水、土壌その他の環境の確保	○		○				○	○		○
	②積雪寒冷な地域特性も踏まえた気候変動に対する適応対策			○	○		○	○		○	
○積雪寒冷地に適した低炭素社会の実現											
	①徹底した省エネルギー対策の推進			○		○	○	○	○		○
	②再生可能エネルギーの導入拡大			○		○	○	○	○		○
	③水素エネルギーの活用			○		○	○	○	○		
○資源を持続可能に活用する循環型社会の実現											
	①廃棄物のさらなる減量に向けた 2R の推進	○		○		○		○	○	○	
	②資源を有効に活用するリサイクルや廃棄物の適正処理	○		○		○		○	○	○	
	③災害廃棄物の対策や自治体間での連携					○	○	○			
○都市と自然が調和した自然共生社会の実現											
	①生物多様性の保全	○		○		○	○	○	○	○	○
	②水やみどりの活用、ふれあいの促進	○		○			○				○
	③生物多様性にも配慮した良好な景観の形成			○			○		○		○
○環境施策の横断的・総合的な取組の推進											
	①幅広い世代への環境教育・学習の推進		○			○	○	○	○	○	○
	②環境側面からの経済振興		○		○	○	○	○	○	○	○
	③環境保全活動を通じたコミュニティの活性化の推進		○	○			○	○	○	○	○
	④道内連携、様々な主体との連携の推進		○				○	○	○	○	○

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

SDGsを踏まえた指標設定											33/ Page
5つの施策の柱ごとにSDGsを踏まえた管理指標を設定											
(2) 将来像の実現に向けた 2030 年の姿（長期的な目標）と管理指標											
積雪寒冷地である札幌の自然条件下で、大気、水、土壌その他の環境が安全であると市民が感じ、安心して暮らせる都市を目指します。具体的には、市民の健康が保護されるよう、大気・水・土壌その他の環境について、環境基準を超過しない良好な生活環境が確保されるとともに、市民や事業者等が円滑な情報共有のもと、一人ひとりが環境保全を意識しながら行動する姿を目指します。 また、将来の気候変動の影響にも対応した暮らしの実現を目指します。 ・大気環境、騒音、河川等公共用水域における環境基準を 100%達成 (2015 年度は、騒音、水質の健康項目で一部未達成 ※詳細は資料編に記載)											
[関連する SDGs]											
ターゲット 6.3	2030 年までに、汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する。										
ターゲット 11.6	2030 年までに、大気の質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。										
ターゲット 13.1	全ての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する。										

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

SDGsの普及に向けた取組①

環境基本計画の策定やSDGsの市民理解を進めるため、SDGsをテーマとしたシンポジウムを環境省、北海道大学、EPO北海道と共催で開催（2017.6.16開催）。

[illegible]

当日の資料や動画は以下のホームページに掲載
http://www.city.sapporo.jp/kankyo/event/sdgs_symposium/

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

SDGsの普及に向けた取組②

小学校5～6年生向けの環境副教材（札幌市内の全小学生に配布）でSDGsを紹介（2017年度～）。



6) 地球を守るための国際的な活動

国連持続可能な開発目標 (SDGs) 19年9月の国連総会において、193か国が採択した国際目標 (国連持続可能な開発目標)

目標を達成するために、なにができる?

SDGsの達成には、政府だけでなく民間企業、市民社会、企業、市民、学生、若者など多様な主体がそれぞれの役割を担い、協力して取り組むことが必要です。1992年のブラジルのリオデジャネイロで開催された「国連持続可能な開発目標」の会議で、世界は持続可能な開発目標を採択しました。これは、持続可能な開発目標 (SDGs) と呼ばれることになりました。

しかし、2020年までの「持続可能な開発目標」の達成率は、約50%と、達成目標から大きく遅れています。2020年の「国連持続可能な開発目標」の達成率は、約50%と、達成目標から大きく遅れています。2020年の「国連持続可能な開発目標」の達成率は、約50%と、達成目標から大きく遅れています。

2015年9月の国連総会において、193か国が採択した国際目標 (国連持続可能な開発目標) と呼ばれることになりました。これは、持続可能な開発目標 (SDGs) と呼ばれることになりました。これは、持続可能な開発目標 (SDGs) と呼ばれることになりました。



17の目標は、持続可能な開発目標 (SDGs) と呼ばれることになりました。これは、持続可能な開発目標 (SDGs) と呼ばれることになりました。

世界をリードする17の目標

1. 貧困をなくそう

貧困をなくそう、貧困をなくそう、貧困をなくそう

2. 飢餓をなくす

飢餓をなくす、飢餓をなくす、飢餓をなくす

3. 健康と長寿を達成する

健康と長寿を達成する、健康と長寿を達成する、健康と長寿を達成する

4. 質の高い教育をみんなに

質の高い教育をみんなに、質の高い教育をみんなに、質の高い教育をみんなに

5. ジェンダー平等を達成する

ジェンダー平等を達成する、ジェンダー平等を達成する、ジェンダー平等を達成する

6. 安全な水と衛生をみんなに

安全な水と衛生をみんなに、安全な水と衛生をみんなに、安全な水と衛生をみんなに

7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに

エネルギーをみんなにそしてクリーンに、エネルギーをみんなにそしてクリーンに、エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8. 働きがい、経済成長、公平な雇用をみんなに

働きがい、経済成長、公平な雇用をみんなに、働きがい、経済成長、公平な雇用をみんなに、働きがい、経済成長、公平な雇用をみんなに

9. 産業、科学、イノベーションを加速する

産業、科学、イノベーションを加速する、産業、科学、イノベーションを加速する、産業、科学、イノベーションを加速する

10. 人や国の不平等をなくす

人や国の不平等をなくす、人や国の不平等をなくす、人や国の不平等をなくす

11. 住み続けられるまちづくりを

住み続けられるまちづくりを、住み続けられるまちづくりを、住み続けられるまちづくりを

12. 持続可能な消費と生産

持続可能な消費と生産、持続可能な消費と生産、持続可能な消費と生産

13. 気候変動に具体的な対策を

気候変動に具体的な対策を、気候変動に具体的な対策を、気候変動に具体的な対策を

14. 海の豊かさを守ろう

海の豊かさを守ろう、海の豊かさを守ろう、海の豊かさを守ろう

15. 陸の豊かさも守ろう

陸の豊かさも守ろう、陸の豊かさも守ろう、陸の豊かさも守ろう

16. 平和と公正をすすめる

平和と公正をすすめる、平和と公正をすすめる、平和と公正をすすめる

17. パートナーシップを世界に

パートナーシップを世界に、パートナーシップを世界に、パートナーシップを世界に

http://www.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_kyoiku/material/

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

SDGsの普及に向けた取組③

36 Page

SDGsの目標11「住みつけられるまちづくりを」、12「つくる責任 つかう責任」などをテーマとし、北海道における資源やエネルギーの循環について「エシカル消費」や「フェアトレード」の観点から考えるワークショップを、下川町と連携して開催。



【開催日時】2017年10月27日（金）7:30-20:00

【場所】下川町まちおこしセンター「コモレビ」

【講師】

- ・一般社団法人エシカル協会代表理事 末吉 里花 氏
- ・神谷町光明寺僧侶 松本 紹圭 氏

【札幌からの参加者】

エシカル消費やフェアトレードに取り組む市民団体、札幌市消費者協会等と下川町を訪れ、実施。



2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

SDGsの普及に向けた取組④

37 Page

さっぽろフェアトレードタウン戦略会議

札幌を「フェアトレードタウン」にすることを目的に、市内でフェアトレードを推進・応援する関係者が集まり戦略を検討中（平成29年8月～）。

呼びかけは「RCE北海道道央圏協議会」という団体で、SDGsの推進（目標12「生産と消費」）につながることから参画中。

*RCE：国連大学が認定する持続可能な社会づくりのための地域拠点

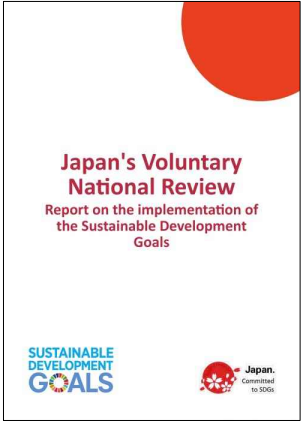


【自治体がSDGsに取り組むメリット（一例）】

- ・17のゴールが明確なため、市民や事業者と目標を共有しやすい。
- ・SDGsに取り組むことを示すことで、市民団体や事業者とパートナーシップを組みやすい。
- ・1つのゴールが他の様々なゴールと結びついている、というSDGsの考え方を活用することで、環境保全対策が持続可能な社会の形成に向けたどのようなゴールに繋がっているかを示しやすい。
- ・率先して取り組むことで、国や海外でのPRに活用できる。

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

日本政府による国外へのPR
38 / Page



【報告書本文抜粋】

・・・、札幌市でも、SDGsへの貢献の視点を反映した環境基本計画の改訂作業が進められており、本年6月16日には、環境省や北海道大学等と共催して、SDGsをテーマとする持続可能な地域づくりシンポジウムが開催された。



As a global city, we should continuously build on its shared energy.

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

持続可能な国・都市になることの波及効果
39 / Page



2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

40 / Page
講演のまとめ

- SDGsは2030年に向けた世界の目標
- 「誰も取り残さない（No one will be left behind）」ことを誓い、先進国や途上国に限らず、国や企業、自治体、市民団体、そして個人を含む全ての主体が参加し、達成を目指すもの
- 「環境」「経済」「社会」に関する課題を同時に解決する統合的目標であり、17のゴールが他のゴールともつながる、連鎖的要素を持つ仕組み
- 持続可能な社会の実現に向けた取組・行動の「見える化」が可能となる仕組み
- 様々な主体がSDGsに取り組む思惑はあるものの、「持続可能な社会」の実現に向けては一人ひとり、また全ての主体が取り組むことが重要

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

41 / Page
ワーク①「SDGsについて、自分とのつながりを考えよう」

SDGsを理解するためのワーク①：
 ご自身の生活の中で、この17のゴールの達成に貢献し得る活動を挙げて下さい。
 また、それに関連するゴールも記載してください。
 ※ 17のゴールの中から3～5程度選択して回答して下さい。

【例】

ゴール番号	ご自身の日常生活の中でSDGsのゴール達成に貢献し得る活動	一緒に活動している人・団体	関連するゴールの番号
13	夏は車を使わず自転車通勤をする	同僚	3、7、8、11

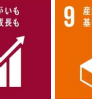
2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

ワーク②「SDGsについて、組織とのつながりを考えよう」
42 / Page



















SDGsを理解するためのワーク①：
ご自身が所属されている組織（会社、団体等）の事業活動の中で、この17のゴールの達成に貢献し得る活動を挙げて下さい。
 また、それに関連するゴールも記載してください。
 ※ 17のゴールの中から3～5程度選択して回答して下さい。
【例】

ゴール 番号	ご自身の日常生活の中でSDGsの ゴール達成に貢献し得る活動	一緒に活動している 人・団体	関連する ゴールの番号
12	北海道産木材を使った住宅の建築 （地産地消）	森林組合	1、3、7、8、9 11、13、15

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

43 / Page

ご清聴ありがとうございました！

質問・要望等は↓までご連絡ください。

札幌市環境局環境都市推進部環境計画課（北1条西2丁目）
 佐竹 輝洋
 TEL：011-211-2877
 Mail：akihiro.satake@city.sapporo.jp

2017.12.1 環境カウンセラー研修 一般公開プログラム「SDGsって何だろう？」

20171201 平成29年度 環境カウンセラー研修（北海道ブロック）

SDGsについて、ともに考える ファシリテーション技術

環境省北海道環境パートナーシップオフィス 溝渕 清彦

1



午後のプログラムのねらい

環境カウンセラーの活動には「問題や課題の解決に向けた適切な助言」「地域の環境パートナーシップ形成」等があり、活動のジャンルにも「ファシリテート・コーディネート」という言葉があります。

…しかしこの「ファシリテーション」とは何でしょう？
午後のプログラムでは、午前中に学んだ SDGs も用いながら、環境カウンセラーに必要とされる「ファシリテーション」について考えます。

2



午後のプログラムの流れ

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1. オリエンテーション | 13:00～13:10 |
| 2. 自己紹介 | 13:10～13:40 |
| 3. グループワーク 1 | 13:40～14:10 |
| 4. ファシリテーションの基礎 | 14:10～14:40 |
| 休 憩 | |
| 5. アイスブレイク | 14:50～15:10 |
| 5. グループワーク 2 | 15:10～16:00 |
| 6. ふりかえり | 16:00～16:45 |

3



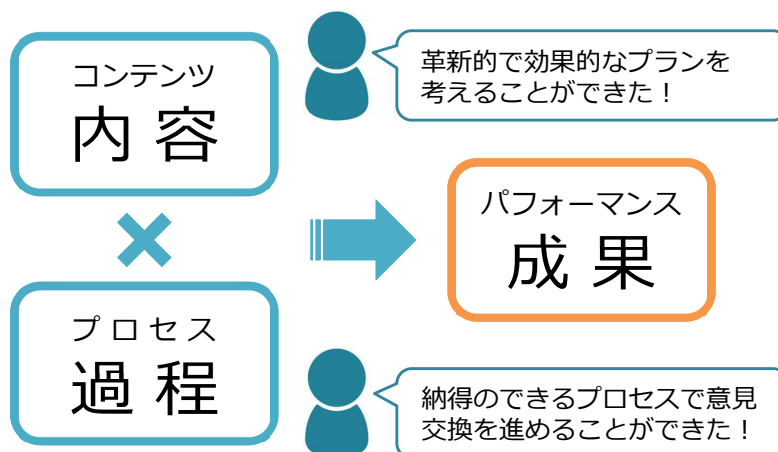
ファシリテーションとは？

会議やチーム活動における
成果が最大となるよう
中立的な立場でプロセスに関与し
活性化を「促進する」こと

4



「成果」とは？



5



学習へのアプローチ



6



心得その1 「傾聴する」



- 「考える」を受けとめる
 - ・ ほどよく視線を合わせて「うなずき」「あいづち」「復唱」「要約」で応える
 - ・ 疑念や自分の意見にとらわれず、相手の発言を真摯に受けとめる

7



心得その2 「質問する」



- 「考える」を後押しする
 - ・ 問いただすのではなく、ともに考える
 - ・ 相手の話題に関心を持って質問する
 - ・ 「開いた質問」「閉じた質問」を使い分ける
 - ・ 沈黙をおそれない
 - ・ 普段から「質問づくり」に取り組む

8



質問の要素の入った聞き方（例）

①受けとめる	●なるほど！ ●いいですね！ ●ありがとうございます！
②糸口を探る	●どうお感じ（お考え）ですか
③考えや意図を掘り下げる	●たとえば ●具体的には ●詳しく教えてもらえますか ●なにかエピソードはありますか
④考えを広げる	●ほかには ●～もあるかも ●どんなことでもいいですよ
⑤確認する	●～ですね ●これでいいですか

※ちよんせいこ（2010），元気になる会議 ホワイボード・ミーティングのすすめ方，株式会社解放出版社，東京，pp.40 等をもとに講師作成

9



変革を促進する4つの機能

（1）変革促進

従前の考え方や習慣を打ち払い、課題解決に向けた新しいプロセスを歩み始められるようにするために、刺激を与え、関心を引き起こす

（2）問題解決提示

「自分たちのアイデアは間違いない」という思い込みを、関係者のニーズ等を整理することで間接的に解きほぐす

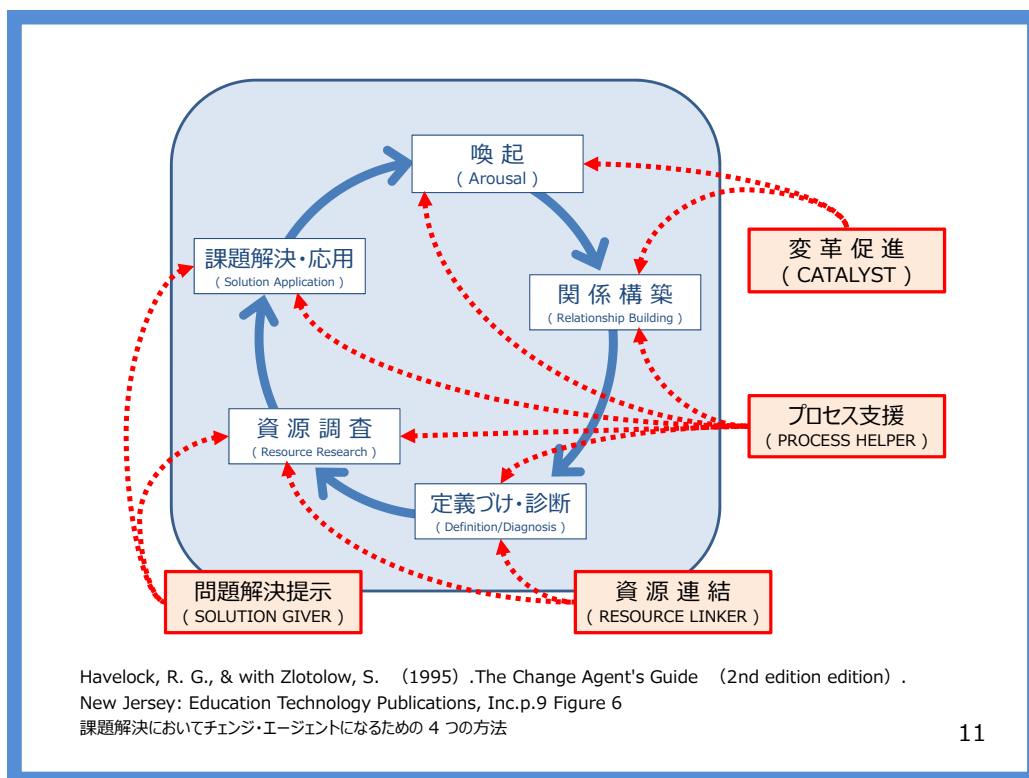
（3）プロセス支援

さまざまな段階において立ち止まって考える。「他に考慮すべきことがないか」といった問いかけを行い、取り組み主体に俯瞰を促す

（4）資源連結

人材や資金、課題設定や解決策に係る知識・技術などの専門性、参画や協働の意思まで、あらゆる資源の組み合わせの検討を促す

10



11



ご清聴ありがとうございました

溝渕 清彦

環境省北海道環境パートナーシップオフィス

／北海道地方ESD活動支援センター

TEL 011-596-0921 FAX 011-596-0931

12

環境カウンセラー研修 ワークシート

【ワーク 1】自己紹介（20 分）

（1）午前中のグループセッションで「気づいたこと」はなんですか？（3 分）

意見交換の「内容」や「進め方」など、どのような点でもよいので書いてみましょう。

・

・

・

・

・

（2）グループで「お名前」「ご所属」「環境カウンセラーとしての活動」と、上記の「気づいたこと」を共有しましょう。

【ワーク 2】ケース演習 1（20 分）

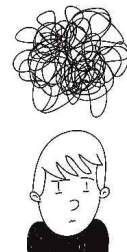
環境カウンセラーとして活動しているときに、次のようなことが起きました。あなたはどのように対応しますか？

自分であればどのように対応するのか、できるだけ具体的に話し合い、メンバーで意見が異なる場合には、どうしてそのように対応しようと考えたのか、考えを掘り下げてみましょう。また、他の対応の仕方はないか、考えを広げてみましょう。

（1）町内会からの依頼で、地球温暖化と省エネについて講演に来ています。参加者の皆さんに、5 人 1 組に分かれてもらい、「家庭でできる省エネ」について意見交換するよう指示しました。あなたが参加しているグループは 8 人になり、しかも参加者の一人が熱弁をふるい、他の方が発言する機会がないまま時間が過ぎているようです。あなたはどうしますか？

（2）講演のため、小学校に来ています。いま、クラスでは小学 6 年生が少人数に分かれて、地球温暖化について意見交換を行っています。あなたが後ろで様子をうかがっていたグループでは、明らかに誤った知識に基づいて発言している児童がいました。あなたはどうしますか？

（3）何度か会ったことのある企業の役員から、「町内会や福祉関連施設、小学校等と連携して、地域の環境保全に取り組んでいきたい」という相談がありました。あなたは企業に対して、どのように支援を行いますか？



【ワーク 3】ケース演習 2 学校バージョン （30 分）

あなたは学校から依頼を受けて、小学校で SDGs について説明することになりました。担当の先生からは、以下のような内容で依頼がありました。

- ・対象は、小学 5 年生で 1 クラス 30 人です。時間は 45 分間です。
- ・担当の先生は、この学年の児童に「筋道立てて考える力」を身につけてほしいと考えています。
- ・今回は「総合的な学習の時間」で行う環境教育です。このプログラムがきっかけとなって、児童が地域で環境保全活動に取り組むようになればよいということです。
- ・あなたが依頼を受けた時間（45 分間）のねらいは、児童が「地球環境問題やそれに対する世界の動きを学びつつ、環境問題を身近なものとして考えるようになる」ことです。SDGs の情報を用いながら、このねらいの達成を図ります。

（1）上記のねらいを達成するためには、児童に対してどのような「情報・知識」を提供し、どのような「問い」を投げかけることが有効でしょうか。（個人ワーク 5 分）

児童に提供する「情報・知識」	児童に投げかける「問い」
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

（2）上記の「情報・知識」のうち欠かせないものを、また「問い」のうち、最も児童の思考を促す質問だと思われるものを、それぞれ 3 つまで選んで○をつけましょう。（個人ワーク 5 分）

（3）上記をグループで共有し、それをもとにプログラムを作成してみましょう。

（A3 判フォーマットに記入、グループワーク 20 分）

【ワーク 3】ケース演習 3 企業バージョン （30 分）

あなたは企業から依頼を受けて、社員の皆さんに SDGs について説明することになりました。担当者からは、以下のような内容で依頼がありました。

- ・対象は、社員及び関係者 30 人です。時間は 45 分間です。
- ・参加者の平均年齢は 40 歳で、20 歳から 60 歳までいます。担当者からは、ベテランの前では若手があまり発言しないと聞いています。
- ・今回は CSR を進めていく一環として実施されます。地域のごみ拾い活動などにはすでに取り組んでいますが、持続可能な社会づくりの意識づけができればよいとのことです。
- ・あなたが依頼を受けた時間（45 分間）のねらいは、参加者が「地球環境問題やそれに対する世界の動きを学びつつ、環境問題を身近なものとして考えるようになる」ことです。SDGs の情報を用いながら、このねらいの達成を図ります。

- （1）上記のねらいを達成するためには、児童に対してどのような「情報・知識」を提供し、どのような「問い」を投げかけることが有効でしょうか。（個人ワーク 5 分）

児童に提供する「情報・知識」	児童に投げかける「問い」
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

- （2）上記の「情報・知識」のうち欠かせないものを、また「問い」のうち、最も参加者の思考を促す質問だと思われるものを、それぞれ 3 つまで選んで○をつけましょう。（個人ワーク 5 分）

- （3）上記をグループで共有し、それをもとにプログラムを作成してみましょう。

（A3 判フォーマットに記入、グループワーク 20 分）

20171201 平成29年度 環境カウンセラー研修（北海道地区）

SDGsについて、ともに考える ファシリテーション技術

（追加資料）

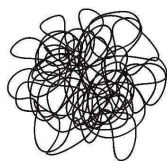
環境省北海道環境パートナーシップオフィス 溝渕 清彦



グループでの意見交換を進める際に！

- ・参加者がおおむね等しくお話ができるように、時間を組み立てましょう
- ・参加者の話に耳を傾け、中立的に受け止めましょう
- ・ひととおり話し終わったら、お互いの共通点をつないだり、違いに焦点を当てて、参加者同士の話を促しましょう
- ・考えを促すために、指示ではなく、質問を意識しましょう
- ・重要なことばがあれば、参加者が見えるようにメモをしましょう

教える から 考えさせる へ



…え？ それでいいの？

対象者の立場からすると…

「教えられる」 から **「考える」** へ

受動的な参画 から 主体的な参画 へ



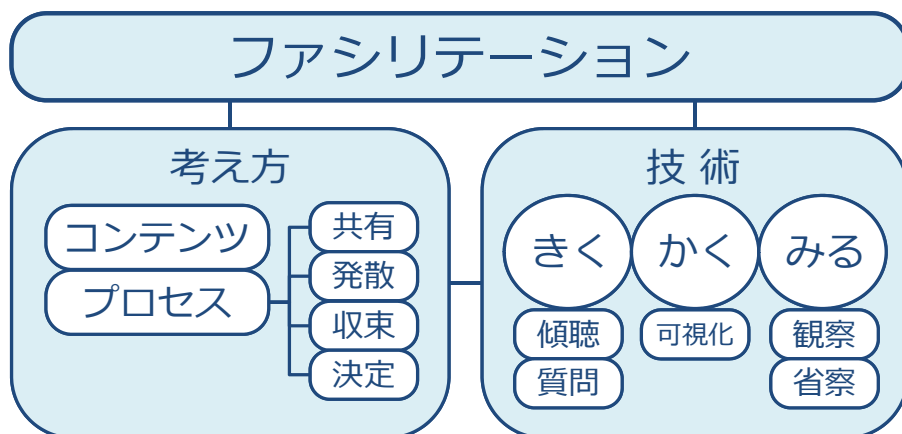
情報提供等を行う立場からすると…

「教える」 から **「考える」を促す** へ

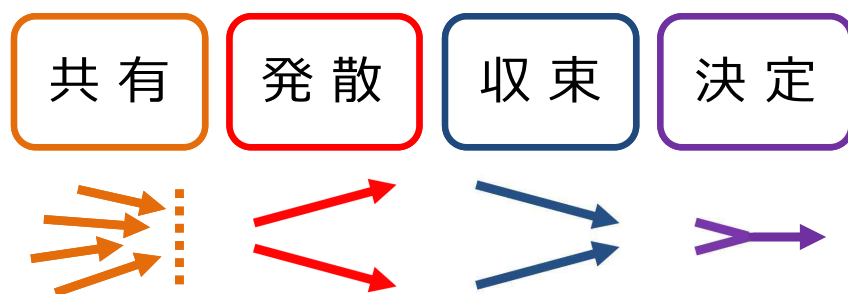
指示的な関係 から 寄り添う関係 へ



協働を促進する ファシリテーション



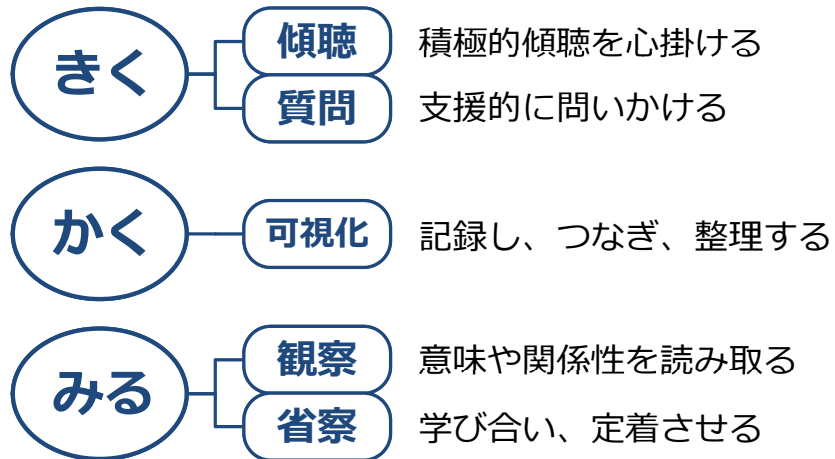
4つのプロセス



混乱を意味あるものとして受けとめる

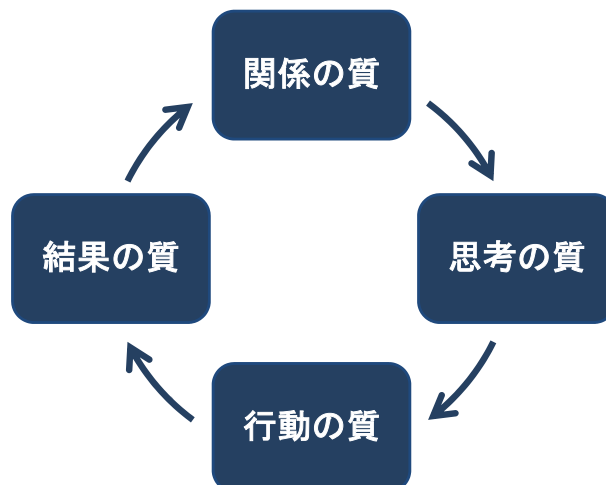


3つのスキル



組織の成功循環モデル

マサチューセッツ工科大学（MIT）ダニエル・キム教授 提唱





心得その3 「見える化する」

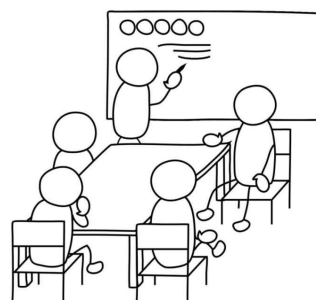


- 記録して、つないで、整理する
 - ・ 文字の美しさや正確さは後回し
 - ・ 少し大きな文字で、一呼吸ゆっくりと
 - ・ 聞き取れなければ、仲間に確認する
 - ・ 情報や意見をつないで、新しいアイデアが生まれることを促す



〔参考〕 空中戦を地上戦に

- メンバー個人に対して…
 - ・ 記憶や記録の負担から解放する
 - ・ 共通の理解や認識を促す
 - ・ 参加のモチベーションを高める
- プロセス全体に対して…
 - ・ 発言者と発言内容が切り離され、チームとしての意見が形成される
 - ・ 意見の広がりや重なりが可視化され、抜け漏れや新たなアイデアの発見が促される
 - ・ 記録を物体として持ち運びできる



4つのプロセス

3つのスキル

共有
発散
収束
決定



きく
かく
みる

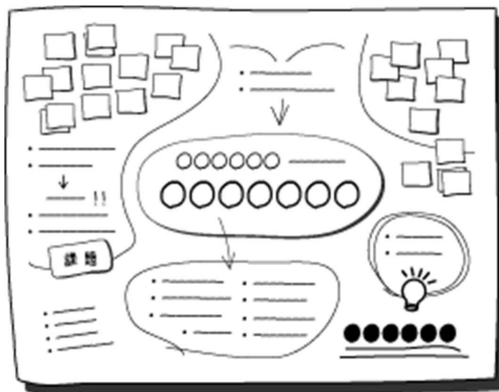


【発散】する

● ブレインストーミングのガイドライン（一例）

- ① 決めつけない × 「それはちょっと無理だね」
- ② 荒削りなアイデアを応援する ○ 「おもしろそう！」
- ③ 数を出す ○ 「もう5個くらい、いけそうじゃない？」
- ④ ほかのアイデアに積み上げる
 - 「このアイデアを発展させたら…」
 - 「このアイデアとこのアイデア、合体させたら…」

- アイデアを平面的に広げる「マップ型」
 - ・ 中央にテーマを置いて、周りにアイデアを書く
 - ・ 近い意見は近い位置に、遠い意見は遠い位置に
 - ・ 矢印や枠で、かたまりやつながりを表す



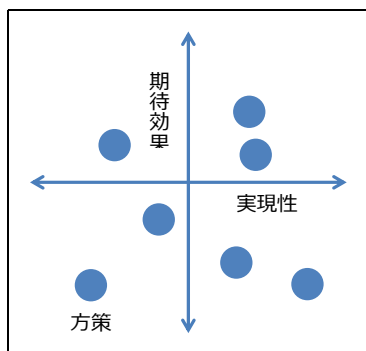
【収束】する

- 規準を探り、アイデアを評価する

例えば…

- ・ 「皆さん、それぞれ、どのアイデアがよいと思いますか？ それはどうしてですか？」
- ・ 「今回のテーマの与件はなんでしたか？ 何のための意見交換でしたか？」
- ・ 「どの評価基準が重要でしょう？」
- ・ 「それではその基準に基づいて、アイデアを整理してみましょうか」

- 収束の足掛かりをつかむ【フレームワーク型】
 - ・ 目的に立ち帰り、基準（ものさし）を考える
 - ・ 基準に沿って優先順位を考え、参考にする



2軸の「ペイオフマトリクス」

	A	B	C	D	E
基準 1 (× 2)					
基準 2 (× 1)					
基準 3 (× 4)					
基準 4 (× 3)					
合計					

複数軸の「意思決定マトリクス」

資料 5-アンケート用紙

平成 29 年度環境カウンセラー研修（北海道地区） アンケート

登録部門	(いずれかに○をつけてください) 市民 事業者 両部門
登録年度	(登録番号の左 4 ケタをご記入ください (登録年度) _____ 年度

本年度の環境カウンセラー研修を受講いただき、誠にありがとうございました。
次年度の研修に向けての参考にするため、アンケートにご協力をお願いします。

- 今回の研修を受講した目的は何ですか。もっとも当てはまるものを 1 つだけ選び、○印を付けてください。
ア. 環境カウンセラーとしてのスキルアップのため
イ. 環境問題に関する最新情報を入手するため
ウ. 環境カウンセラー相互の情報交換を行うため
エ. 登録更新の要件(研修の修了)を満たすため
オ. その他 ()
- 今回の研修プログラムはいかがでしたか。
次の i) ii) の設問について、それぞれ回答を 1 つだけ選び、○印を付けてください。
i) 午前の部 基調講演 「SDGs って何だろう？なぜ、国、自治体、企業が取り組もうとしているのか」
① 活動に得るものがありましたか
(得るものがあった ・ 普通 ・ 得るものはなかった)
② 時間について
(長かった ・ 普通 ・ 短かった)
③ 講演内容はカウンセラー業務の参考になりましたか
(十分参考になった ・ 普通 ・ 参考にならなかった)

※午前の部の感想があればご記入ください。

裏面もお願いします

- | |
|--|
| |
|--|

--

- | |
|--|
| |
|--|

- | |
|--|
| |
|--|

- | |
|--|
| |
|--|

69

資料 6-アンケート結果

平成 29 年度環境カウンセラー研修(北海道地区) アンケート集計結果

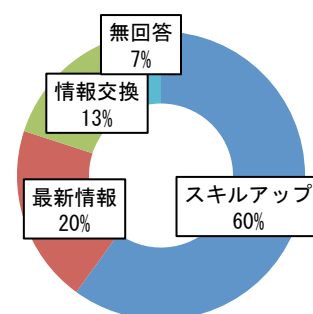
平成29年度の研修は、環境カウンセラー15名、一般参加者40名の55名で開催された。環境カウンセラー15名の受講者中アンケートを提出された方は15名であった。(本年の回収率は100%、前年も100%)。なお、本年は道外からの参加者が1名あった。

なお、登録部門および登録年度は次のとおりであった。

登録部門	市民部門：3名、事業者部門：10名、両部門：2名
登録年度	1996年度：2名、1998年度：1名、1999年度：1名、2000年度：1名、 2001年度：3名、2002年度：1名、2004年度：2名、2006年度：1名、 2010年度：1名、2011年度：1名、2014年度：1名、

1. 参加目的について

スキルアップが60%、最新情報が20%、情報交換が13%であった。(昨年は、最新情報と情報交換がともに35%、スキルアップが23%、登録要件が6% (1名) であった。)



2. 研修プログラムについて

i) 午前の部 基調講演「SDGs って何だろう？なぜ、国、自治体、企業が取り組もうとしているのか」

①活動に得るものがありましたか？

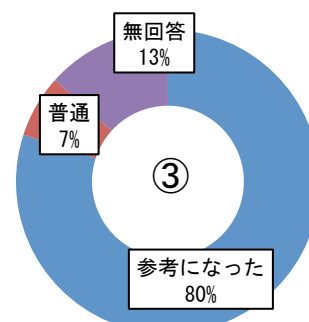
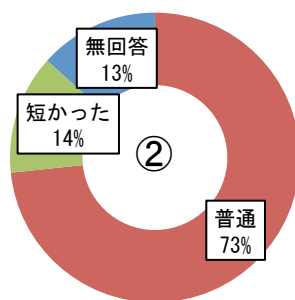
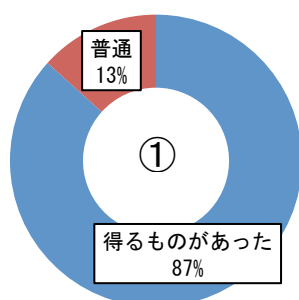
「得るものがあった」が87%、「普通」が13%であった。感想に、「わかりやすかった」という声が非常に多かったように、ほぼ参加者全員が評価している結果となった。

②時間について

ワークや共有も含めて110分のプログラムであったが、「長い」は1人もなく、「普通」が73%、「短かった」が13%で、この回答から、充実した内容であったことが窺える。

③講演内容はカウンセラー業務の参考になりましたか？

「十分参考になった」が80%、「普通」が7% (1人)、無回答が7% (1人) であった。



□午前の部感想

- ・ たくさんの参加者があり、皆さんしっかりと考えておられたのが印象的でした。またもうお一人のカウンセラーの進め方が、グループワークをより良いものにしていましたことから、とても参考になりました。
- ・ 一般の方々との交流もあり、つながりを新たに築けた。
- ・ 6 人のグループ討議、発表の時間が不足していた。
- ・ とても分かりやすかった。
- ・ 大変判りやすい説明でした。
- ・ 身近なことから分かりやすく説明して頂いた。
- ・ SDGs の内容が理解できました。
- ・ たいへん解りやすかった。SDGs のイメージがわいた。
- ・ 再度、研修機会を持っていただきたい。
- ・ 大変分かり易い説明だった。今後、SDGs の認識がさらに広まってほしい。

ii) 午後の部 グループディスカッション

① 時間について

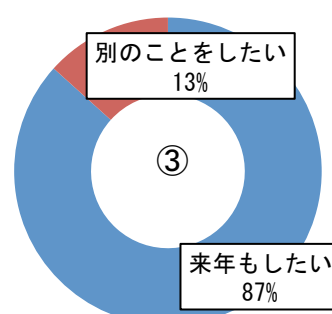
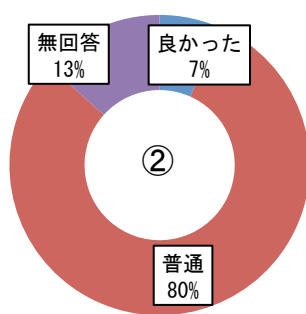
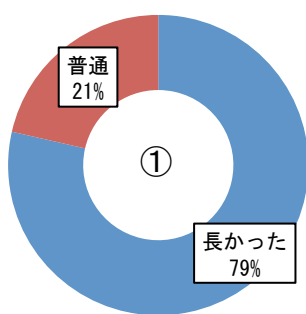
「長かった」が 73%、「普通」が 20%であった。

② 進行について

「良かった」が 7%、「普通」が 80%であった。

③ ディスカッションについて

「来年もしたい」が 87%、「別のことをしたい」が 13%であった。



□午後の部の感想

- ・ 午前の部から環境カウンセラーにファシリテーションを求める”仕掛け”があり良い実習になった。参加者が少なくて残念。
- ・ ファシリテーションの説明が長いと思います。実技を取り入れるとよい。
- ・ グループディスカッションの時間が短い。
- ・ 取っ付きにくい面もあったが皆さんと共有することで理解できた。

- ・ ” 発散 “ と収束を分ける。・・・ good!
- ・ ファシリテーションの重要性を再認識しました。
- ・ 席を移動しないグループディスカッションで落ち着いて意見交換ができた。
- ・ 今回のようなカウンセラーとしての技能向上につながれば良い。
- ・ 非常に難しい。
- ・ ファシリテーションの技術を習得活用したい。
- ・ 話し合いを円滑に進めるコツがわかりとても参考になりました。

3. 開催時期について

この質問への回答は、7名（参加者15名の47%）あった。

具体的な月では、「11月」、「9月」という意見があった。また、具体的な月の提示はないものに、「特にないが秋が良い」や「12月でなく暖かい時期」という意見があった。曜日では、「土、日」、「土曜日」、「金曜日の午後」があがっていた。

具体的な記述は、「11月の土、日曜日」「11月が良い」「9月の土曜日」「金曜の午後から」、「12月でなく暖かい時期」「特にないが秋が良い」「土日が良い」であった。また、開催時期については、「参加者だけではなく、カウンセラー全体に尋ねた方が良い」とする意見があった。

4. 研修の形式について

「本年と同じ形式で良い」が80%、「形式を変えてほしい」が7%（1名）であった。「形式を変えてほしい」の具体的な内容は、「環境省の施策」であった。

5. 次年度の研修において、講演で希望するテーマや講師、実施してほしいテーマ等がありましたら、その理由も合わせてご記入ください。

- ・ エネルギー、再生可能エネルギー
- ・ 最新の省エネ技術
- ・ 予算が合えば芸能人の講演会を企画してほしい。マスコミ報道の知らない一面を見てみたい。

6. その他、研修についてご意見等ありましたらご記入ください。

- ・ 環境カウンセラーの参加率を上昇させることが必要(広報活動)
- ・ 段々と参加者が少なくなるので、PR 法他にも考える必要があるし、カウンセラーの価値感の要請が必要と思う。
- ・ カメラマンの移動が多く、講演の最中出来ないことがあった。
- ・ 中身が濃かった。
- ・ 若手の育成についての(会員拡大)研修会を企画してほしい。

環境カウンセラー研修公開講演会にご参加頂き、誠にありがとうございました。
今後に向けての参考にするため、アンケートにご協力をお願いします。

- | |
|--|
| |
|--|

73

資料 8-アンケート集計結果（一般参加者）

平成 29 年度環境カウンセラー研修（北海道地区） アンケート集計結果

一般参加者40名の内、23名の回答があった。（回答率58%）

1. 参加者の居住地について

札幌市内居住者が21名で、恵庭市と北広島市からの参加者が各1名あった。

2. 参加者の年代について

回答者の内、50代が6名と一番多く、次いで、20代と60代の5名、40代の4名、70代の2名、30代の1名であった。

3. 媒体について（複数回答）

「チラシを見た」という方が12名と一番多かった。次いで、「知人から聞いた」が5名、「その他」の4名、「メールニュース」の2名という順であった。

4. 参加の動機について（複数回答）

「SDGsについて知りたかった」が19名、「講師への関心」が7名、「環境カウンセラーへの関心」が6名、「企業活動の参考にするため」が4名だった。

5. 参加した感想について

「SDGsについて知る良い機会になった」が14名、「得るものが多かった」が12名、「SDGsについてもっと知りたいと思った」が4名、「得るものは少なかったが参考になった」が1名であった。

6. 感想（具体的に）

- ・ 何も事前知識のないまま参加しましたが、とても理解しやすい内容でした。有難うございました。
- ・ 佐竹さん話し上手でした。SDGs の持つ市民性を強調してもらえとなお良いです。
- ・ 参加者の SDGS への取組を知ることができ勉強になった。SDG s ソングは周り人たちに伝えて行きたいです。
- ・ 他分野の方の意見が聞けて良かったです。
- ・ 普段の業務で SDG s を意識していなかったが、SDG s と関連付けた指導ができると思いました。
- ・ SDG s という指標がなくても、世界的に取り組んでいけるのがベストであると感じるが、現状において世界的な”意識付け”の1として画期的である。現在は、取り組みはじめてということで大きなムーブメントとなっているが、取り組みを単発的なもので終わらず、まさしく持続していくことが大切であると感じる。自分自身の生活や職場で実践していけ

ることを考え取り組んでいきたいと感じる。

- ・ 非常に勉強になりました。有難うございました。
- ・ 分かりやすい説明でとても勉強になりました。もっと学んで自社の取組に早く落とし込みたいと思いました。有難うございました。
- ・ すごく分かり易かったです。有難うございました。
- ・ 企業と SDGs について等、大変勉強になりました。
- ・ 現在従事している業務に参考になること多々ありました。環境カウンセラー資格取得についても積極的に考えたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 佐竹さんのお話が分かり易くユーモアがありとても良かった。なぜ国や企業が取り組むのか富裕層が本当に取り組むのかについてルール作りや投資など背景の説明が分かり易かった。最後のワークは「えー」と思ったけど共有出来て良かったです。
- ・ 良くわかった。皆さんと話すワークショップが良かった。
- ・ 環境に限定されない内容で良かった。SDGs を進める意義が単に理念的ことでなく企業行動としても理解できた。
- ・ SDGs についてとても分かり易い講演でした。ワークの時間や共有する時間がもう少しあるとよいと思いました。グループで共有するときカウンセラー協会の方がファシリをきちんとして頂けるともっと良い時間になると思いました。自身の活動の話を長々とする方もいてグループ共有の時間を理解されていない方が多かったような気がします。
- ・ 沢山の環境系の NPO や財団ができて環境に配慮するつもりはよくわかりますが『公益財団法人北海道環境財団』に統一されていくべき!!道総研と同じにするべき!
- ・ 現役を引退後自己研鑽のため環境問題について多々勉強しようと思っています。今回の SDGs 講演で全体像が見えてきました。

平成29年度環境省北海道地方環境事務所請負業務
平成29年度環境カウンセラー研修開催業務実績報告書

2018年	2月
-------	----

特定非営利活動法人 北海道環境カウンセラー協会
〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ2階
札幌市市民活動サポートセンター内事務ブースNo. 2
TEL 011-737-8505 FAX 011-737-8505
URL : <http://www.ec-hokkaido.com/>

リサイクル適正の表示：紙へリサイクル可

本冊子は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料のみを用いて作成しています。